

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧（目次）

体系番号	具体的施策名	ページ数
A-1-1	地域産業の競争力強化と地域内経済循環	1
A-1-2	新産業の創出とインフラ整備	-
A-1-3	ものづくりを核とした中小企業の成長の促進	5
A-1-4	農業の競争力強化と担い手確保	5
A-2-1	若者の定着促進と就労支援	7
A-2-2	多様な人材が活躍できる職場環境づくりと就労支援	7
B-1-1	ワーク・ライフ・バランスの更なる推進	12
B-2-1	自然な出逢いと結婚の希望の実現	13
B-2-2	妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	13
B-2-3	すこやかな育ちへの支援の充実	19
B-2-4	地域ぐるみの子育ての推進	20
B-2-5	上越の子育て環境の魅力発信	21

体系番号	具体的施策名	ページ数
C-1-1	中心市街地の都市機能の強化と魅力の向上	22
C-1-2	農山村の暮らしを支える機能の確保と魅力の向上	24
C-1-3	都市のストックの活用促進	25
C-2-1	まちづくりへの参画と愛着醸成	27
C-2-2	まちづくり・地域づくり活動への支援体制の強化	30
C-3-1	公共交通の利便性向上と利用促進	32
C-3-2	域内の交流促進と魅力発信	34
C-4-1	観光コンテンツの充実と稼ぐ観光の強化	37
C-4-2	コンベンション誘致による消費拡大	41
D-1-1	UIJターンと定住の促進	41
D-2-1	まちの拠点性の強化	-
D-3-1	若者の人材育成と交流促進	-
D-3-2	外部人材の活躍	43

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
A-1-1	1	上越市商工会連絡協議会	経営発達支援事業	A-1-1 A-1-3	継続	協議会組織であるため母体の各商工会が具体的事業に取組むこととなります。商工会の構成員は多くが中小企業で、地域社会と相互依存関係にあります。そのため地域資源を活用した事業や地域住民を対象とした事業を多く実施してきました。しかしながら人口減少により、地域内経済循環の仕組みがうまく機能しなくなっています。	商工会員の経営支援により持続的地域社会の構築に努める。 現状の経営支援に加え経営革新の支援や創業支援を行っていく。	地域資源を活用した特産品開発・観光振興では、地域住民からも積極的に参画していただき、自分たちの地域資源であるとの認識を深めてもらい商品等のファンとなってもらい。開発段階から販売面に踏み込み継続的の事業経営スタイルを確立する。近隣と連携することで、具体的販売実績に結びつけていく。 イベント等により地域コミュニティの再構築と近隣との連携による販売促進支援により商工会員の事業機会を創出していく。 (商工会会員の多くが中小企業であり、中でも家族従業員のみ的小規模事業者の比率が高い。「しごとづくり」も広義で解釈すれば、小規模事業者は本人の働く場を自ら創出している。また、小規模事業者の持続的発展を支援することで、中小企業や大企業の成長発展につながり雇用の確保につながる。)
A-1-1	25	上越信用金庫	上越地域連携プラットフォーム事業	A-1-1	継続	・今後の地域経済の活性化のためには、企業の経営改善や販路拡大、事業承継等、企業の抱える様々な課題の解決に向けた取組みについて、地域の商工団体や金融機関等が支援機関として連携し、一丸となって推進を行ってゆくことが必要である。	・合同セミナー（事業承継）の開催。 ・各種ビジネスマッチングへの支援。 ・支援機関連携連絡会議等の開催による事業の運営、管理。	・当金庫が代表機関となり、上越商工会議所、新井商工会議所、糸魚川商工会議所、新井信用金庫、糸魚川信用組合の5機関と連携し、登録支援機関「上越地域連携プラットフォーム」（平成25年9月組成）を運営。専門家派遣、合同セミナーの開催、ビジネスマッチングの取組み、連携連絡会議の開催、合同研究会の開催等により、地域の支援機関が連携し、地域の中小企業・小規模事業者へのビジネス創造や経営改善・革新等のサポートを行うことで、地域経済の活性化を図る。
A-1-1	26	上越信用金庫	M&A等業務に係る関連企業との連携事業	A-1-1 A-2-2	新規	・当地域には後継者難や業績低迷から中小企業者等のM&A等のニーズが潜在的に多くあるにも関わらず、事業承継に関する多面的な相談の場も少なく、一人で自主廃業の道を選択される経営者が増加傾向にあり、廃業により、技術・顧客の承継はもとより、地域の働く場が縮小され、人口減少にも拍車をかけている現状から、事業承継は喫緊の重要課題となっている。	・連携機関での勉強会、研修会の開催。 ・相互間の協力体制を活かした事業承継、M&Aに係る支援。	・当金庫と地元の税理事務所2社の3者が、M&A等の案件の成約に向け、連携機関相互に協力することを目的とした業務提携に関する協定を結び、事業承継、M&Aに向けた支援について継続的にサポートを行うことで、地域経済の活性化を図る。
A-1-1	34	上越発酵食品研究会	発酵食品の開発促進と「発酵のまち上越」のPR	A-1-1 C-3-2		農・商・工の連携により、発酵食品による地域ブランド創りを通じて、地域活性化を図る。	「発酵のまち上越」のイメージ確立	・ブランドイメージの発信…継続した「発酵のまち上越」の魅力の発信 ・売れる商品開発…商品の磨き上げや新商品開発の促進、農商工・産学連携マッチング ・販売促進…PR機会の提供、飲食店等出口とのマッチング ・利用シーン拡大…飲食店における地域発酵食品を活用したメニュー化の促進 ・次世代継承…次の世代への継承

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
A-1-1	35	雪だるま財団	自然エネルギー推進事業	A-1-1	継続	雪の利活用を図ることを目的に設置した経緯もあり、自然エネルギー推進事業をメインとして活動している。社会的に再生可能エネルギー活用の取組が求められている中でもあり、雪国に賦存する雪という地域資源を活用し事業展開を図っている。	①雪室を活用した商品開発や付加価値化に取り組み、雪室商品の地域ブランド定着に向けて取組を進める。 ②雪を核としたイベント、雪国文化の発信などに取り組み、地域への愛着を目指す。	雪室活用事業 ・雪を活用した食品の貯蔵アドバイス、技術支援を行う ・雪室貯蔵の効果などについて利用者へ情報提供を行う ・地域ブランド化の支援 ・雪室設計技術支援など 雪国の情報発信 ・雪穴や雪室という文化を後世に残していくため、上越地域の雪国文化の情報収集を行う ・雪を活用したイベント等の事業提案、協力支援、情報発信等
A-1-1	37	株式会社大光銀行	—	A-1-1 A-2-2	継続	・地方創生は、長期的視点に立って取り組む必要があることから、第1期総合戦略の事業を継続して行っていく。 ・地域社会、経済の活性化には、地域金融機関が果たす役割は重要であることから、総合戦略実現に向け積極的に関与していく。	各政策分野の基本目標の達成	「第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の実現に向けて、各種金融支援、非金融サービス、情報提供等の多面的な商品・サービスを提供する。 ＜実施方法＞ ・創業者や地域企業への金融支援、非金融サービス、情報提供等 ・クラウドファンディングを活用した地域産品のPR ・「空き家対策ローン」（空き家リフォームローン、空き家解体ローン）の活用 ・「リバースモーゲージローン」の活用 ・「医療・介護・福祉」分野、「農業・六次産業化」分野、「環境・エネルギー」分野、「創業・第二創業」分野、「事業継承・M&A」分野への支援 ・ビジネスマッチング、商談会等の販路開拓の機会提供 ・各種セミナーの開催による情報提供 ・各部専門機関の紹介 等
A-1-1	38	株式会社富山第一銀行	仕事づくり事業、就労支援事業	A-1-1 A-2-2	継続	取引先企業の実態把握	ソリューション営業の実施	・事業計画の策定支援 ・各種専門家派遣による支援 ・積極的な補助金制度の活用 ・当行ネットワークを活用したビジネスマッチング推進
A-1-1	39	株式会社北越銀行	上越市まち・ひと・しごと創生推進協議会「しごとづくり部会」	A-1-1 A-2-2	新規	事業所廃業による雇用機会の喪失	地元金融機関として継続企業（ゴーイング・コンサーン）の一助となり、雇用機会の創出、維持を目指す。	・創業先、第二創業先への支援による雇用機会の創出。具体的には、①事業計画作成支援②ビジネスマッチングや商談会による商談成約③専門家派遣ならびに専門家相談④補助金のサポート⑤事業資金の融資 等 ・後継者不在の事業所等に対し、事業継承、M&Aの手法にて継続企業支援を図り、雇用を維持。
A-1-1	40	新潟県信用組合	地域産業支援のためのネットワーク強化	A-1-1 A-2-2	継続	・創業支援先の創業後の事業継続状況の検証 ・創業後の経営支援	創業支援数、創業（実現）数について現状を上回る。	○創業支援 ・上越市創業支援ネットワークへの参画 ・「けんしん創業アカデミー」の開催 ・「創業・新事業ローン」による金融支援 ・「地域活性化資金」による金融支援 ○事業継承支援 ・事業継承、M&Aマッチングサービス ○その他総合戦略の政策に関する取組 ・住宅ローンの定住支援割引制度 ・各種ローンの子育て支援金利割引制度 ・定期積金の子育て支援金利上乗せ制度 ・飲食業、旅館業等観光に係る業種専用融資「地域のチカラ」による金融支援 ・「謙信空店舗活用支援資金」による街の活性化

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
A-1-1	43	日本政策金融公庫	事業継続支援プロジェクト (事業継承等への支援)	A-1-1	継続	廃業の増加	経済の活性化、雇用創出	事業の安定と発展、事業継承等を支援し、廃業の抑制を図るためのお手伝いをさせていただきます。事業所の維持・発展は、地域の雇用増大にもつながり、市内への人の流れにもつながります。具体的には、全国152支店網を活かしたビジネスマッチングシステムの活用や公庫主催の国内最大規模の国産農作物展示商談会（アグリフードEXPO）を通じての、上越市内の企業家や農業家等の販路の開拓支援を行います。また、廃業の抑止に資する事業継承・集約・活性化支援資金を通じての金融支援を進めていきます。
A-1-1	46	東京海上日動火災保険株式会社	東京海上グループソリューションによる地方創生実現サポート	A-1-1	継続	自治体・商工会議所と連携した施策の展開（BCP対策、健康経営）	・地域企業の災害時事業継続のための支援。 ・地域企業の皆様が健康経営に取り組むための実務サポート。（がん対策基本法改正の周知及びがんセミナー開催、保険のメリット活用）	各種セミナーの実施を予定
A-1-1	47	株式会社オアシス	MOG-MOGプロジェクト	A-1-1 A-1-4 A-2-1 A-2-2	継続	・農業分野の取組みとして、4月から11月の第2・第4土曜日に、上越妙高駅を会場に野菜ふるさと市「MOG-MOGフェア」を開催。春先は野菜収穫の時期には早く、また、近年、夏場の異常気象の影響を受けるなど、定期的に一定程度の質の野菜を確保することが難しいときもあった。 ・過去5年で13区の農業従事者の方たちと築いてきた、人脈や交換した情報から、上越市には、まだ活用できる人的・モノ的資源が眠っていると思う。それらを相互に結びつけ、活かせるような取組をしていきたい。	・年間を通じて安定的に販売できる、自然環境の影響を受けにくい商品の開発。 ・ホームページのさらなる活用とSNSなどを活用して、情報発信をする。 ・上越市の第3セクターの施設などと連携し、さまざまなイベントを企画することで、市内外から誘客を図る。 ・若者や高齢者、他業種との人脈を活かし、3セクの施設や周辺の空き家を活用したUIJターンの取組み。	〈3～5年後の構想〉…現在のところ、大まかなイメージ（理想像）です。 ・上越市の第3セクターの施設と連携した新たな取組みに、市内外から多くの人々が訪れている。 ・UIJターンをした若者が働く場所があり、地域の活性化が図られている。 ・IT系の企業を主に、サテライトオフィスとして地元の施設が活用されている。 ・農業従事者のみなさんと連携して開発した地元料理があり、訪れた人々をもてなしている。 ・農業従事者の方々と季節や自然環境に左右されない商品開発が進み、販売されている。 ・そのための加工工場が整備され、雇用も生み出している。 ・外国からの観光客が多く訪れる、季節ごとに地域の資源を生かしたもてなしがある。 ・季節ごとに地域の資源（自然、文化、食など）を生かしたイベントが開催され、全国からファンが訪れる。 ・冬の雪を生かしたイベントや、スキー・スノボのファンに向けた企画があり、全国からファンが訪れる。 ・上記の情報を発信しながら、地域の特産品を販売できるネット環境が整っている。

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
A-1-1	51	NPO法人上越地域活性化機構	「地域内の情報の積極的な利活用による地域活性化の実現」⇒上越地域発のIT事業	A-1-1	新規	<p>自治体、企業、各種団体、あるいは各仕組みにおいて利活用されている様々な情報が個別に存在しており、その利活用が枠組み内に限定されている。これらのうち公開、再利用して良い情報について、積極的な利活用を図ることで、地域内の生活、活動の利便性が飛躍的に向上する。</p>	<p>上越地域発のIT事業プラットフォームを構築する。</p> <p>①地域内のオープンデータの利活用を図る。</p> <p>②地域生活の利便性が向上するシステムを構築していく。</p> <p>③災害時の情報を地理空間システムを活用し一元化する。</p> <p>④デジタルサイネージネットワークの構築等で新しい情報発信を実現する。</p>	<p>①地域内のオープンデータの利活用を図る。地域の生活において必要な情報が何なのかを産官学民で検討する場を作り、利活用していくような環境作りを行う。</p> <p>②地域生活の利便性が向上するシステムを構築していく。自治体、あるいは企業、団体と連携し、地域生活に必要なシステムの開発を実施する。(例：地域交通運行支援システム他)</p> <p>③災害時の情報を地理空間システムを活用し一元化する。県と災害時応援協定を締結する等、災害時の情報を地理空間システムで一元化する。これらの情報をはじめとして、地域内の各種情報の集約化を図る。</p> <p>④デジタルサイネージネットワークの構築等で新しい情報発信を実現する。</p> <p>上記①～③により収集される情報、データをデジタルサイネージ等のデジタル機器に配信し地域内の生活の利便性を向上させる。</p>
A-1-1	52	くびき野地理空間情報センター	<p>○上越市で公開されたオープンデータについて、利活用に関する環境整備</p> <p>○上越市のイベント等総合情報サイトをGISを活用し情報発信、そのための素案作り</p>	A-1-1	継続	<p>上越市や新潟県が提供しているオープンデータを収集し、汎用性が高くなるよう加工、そのデータを提供できるようなシステム化を行う、『地域情報センター』の役割を担う環境作りを考えており、それに向けて関係団体とも協議をしている。データサーバ等、協力してくれる団体とも協議をしているが、システム化までは進めていない状況。</p>	<p>新潟県と災害協定を結んでおり、『地域情報センター』で加工したデータも、その中で活用できるようなものにしていきたい。</p>	<p>関係団体であるORAJA（上越地域活性化機構）と協議を重ね、『地域情報センター』の構築、そしてデータ加工のシステム化を目指していきたい。</p>
A-1-1	53	雪室推進プロジェクト	雪室推進プロジェクト推進事業	A-1-1	継続	<p>民間企業や団体等が中心となって平成27年に「雪室推進プロジェクト」が発足。雪の利活用を通じて地域資源を見直し、地域で活動する様々な団体と協力しながら活動している。平成28年度から30年度まで上越市の補助金を活用して事業を実施。今年度から会員の会費で活動を継続していく。</p>	<p>雪室推進プロジェクトの活動、雪を活用した雪室や雪室食材の料理、雪室商品など、雪国ならではの特性を生かした取り組み、その価値や魅力を発信し、地域への愛着、郷土愛の醸成を図る。</p>	<p>○雪室グルメフェア開催</p> <p>地域での浸透を図るため、地元飲食店等と連携し「雪室グルメフェア」を開催する。また、飲食や物販を通じ、雪室メニューや雪室商品を知っていただく機会とする。また、このイベントをきっかけに上越への誘客に結び付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回開催（8月、2月） ・市内の飲食店、洋菓子店、ベーカリーなどから参画していただき、雪室食材を使った特製メニューを提供する。 ・当プロジェクトの活動や雪室商品など、地域内外に情報発信する

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
A-1-3	1	上越市商工会連絡協議会	経営発達支援事業	A-1-1 A-1-3	継続	協議会組織であるため母体の各商工会が具体的事業に取り組むこととなります。商工会の構成員は多くが中小企業で、地域社会と相互依存関係にあります。そのため地域資源を活用した事業や地域住民を対象とした事業を多く実施してきました。しかしながら人口減少により、地域内経済循環の仕組みがうまく機能しなくなっています。	商工会員の経営支援により持続的・地域社会の構築に努める。 現状の経営支援に加え経営革新の支援や創業支援を行っていく。	地域資源を活用した特産品開発・観光振興では、地域住民からも積極的に参画していただき、自分たちの地域資源であるとの認識を深めてもらい商品等のファンとなってもらう。開発段階から販売面に踏み込み継続的・事業経営スタイルを確立する。近隣と連携することで、具体的販売実績に結びつけていく。 イベント等により地域コミュニティの再構築と近隣との連携による販売促進支援により商工会員の事業機会を創出していく。 (商工会会員の多くが中小企業であり、中でも家族従業員のみ的小規模事業者の比率が高い。「しごとづくり」も広義で解釈すれば、小規模事業者は本人の働く場を自ら創出している。また、小規模事業者の持続的発展を支援することで、中小企業や大企業の成長発展につながり雇用の確保につながる。)
A-1-4	2	えちご上越農業協同組合	農業後継者雇用制度の創設	A-1-4	新規	農業従事者の高齢化が進み担い手不足が深刻化している中、若手農業者の確保を積極的に進めていく必要がある。明日の農業を担う農業後継者の育成確保により、地域農業の発展に寄与する。	農業後継者雇用制度を創設し、就農希望者をJAで3名程度雇用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・農業後継者の育成を目的に、就農希望者を対象にJAでの業務や研修を通じて営農技術と経営知識を習得してもらう。 ・JA内各部門の勤務通じ、知識の習得と農業分野の情勢把握や関係機関との人脈づくりが期待できる。 ・雇用契約（原則3年間）終了後、農業後継者として就農する。
A-1-4	5	えちご上越農業協同組合	消費者参加型農業体験・視察ツアー	A-1-4 C-2-1	新規	地域の主産業である農業に対し、管内で生産されている農畜産物の情報提供や、地産地消に対する理解を高める活動を積極的に展開する必要がある。消費者の理解を現場を消費者から知ってもらうことで、地域への理解・愛着の向上と地元農畜産物の消費・販売拡大につなげたい。	消費者の農への理解向上と地元農畜産物のファン拡大を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者による農業の現地圃場巡回や農作業体験ツアーの実施。
A-1-4	6	えちご上越農業協同組合	新規就農希望者向け農業体験	A-1-4	新規	農業従事者の高齢化が進み担い手不足が深刻化している中、新規就農者の確保を積極的に進めていく必要がある。農業を始めたいと考えている人が農作業の実体験をする機会をつくり新規就農者確保につなげたい。	農業に興味があり、農業を始めたいと考えている人に対し、農作業を体験できる機会を設け、新規就農者を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> ・当地域に就農する意欲ある人を対象に、農業農人等各組織と連携し農業体験機会を提供する。 ・水稻、園芸、畜産等参加希望者に沿った体験内容を用意し、1回の体験を概ね3日～1週間程度とし、年2回程度体験できる人を募集する。 ・新規就農者の受入れを希望する法人等経営体と連携し、就農受入れ先を確保する。 ＜農業体験のメリット＞ ・農作業の実体験ができ、作物に対する関心が高まり、やりがいを感じるにより就農に向けたイメージが立てられる。 ・プロの農家から栽培技術や飼育方法など直接指導を受け、農業知識と経営の助言を受けることが出来る。 ・農業開始時にはJAの総合事業（営農指導、生産資材、農業機械、農業資金）での極め細やかな相談を受けることが出来る。

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
A-1-4	10	農研機構中央農業研究センター	新品種・新技術による地域農業の競争力強化	A-1-4	継続	上越市の水稲作付面積は全国第4位であり、農業は重要な地域産業の一つであるが、全国的に農業者の高齢化が進む中、担い手の確保が喫緊の課題となっている。	上越市の農業をより魅力のあるものとし、若者を中心に新たな担い手の参入、定着を実現する。	・上越市やJA越後上越等、関係機関との連携のもと、水稲や大麦などの新品種の普及、加工利用促進の活動を実施する。 ・水稲の低コスト生産技術、大豆や飼料米の生産技術等々、水田農業に関わる新技術について、技術指導等の活動を積極的に実施する。 ・農業者、消費者向けの農業イベントとして、「北陸地域マッチングフォーラム」を開催し、北陸地域農業の活性化、競争力強化に繋がる活動を展開する。
A-1-4	11	農研機構中央農業研究センター	農業と科学技術に対する市民理解の向上	A-1-4	継続	上越市の将来を担う子供たちにとって、地域産業である農業について学ぶことは重要であり、食べ物の大切さや地球環境の重要性に関する理解を通じて、地域への理解・愛着が深まることが期待される。	農業と食に関する理解を通じた上越地域への愛着向上	・農業試験研究機関の社会貢献的な活動として、小学生を対象とする「食と農の科学教室」の開催に取り組む。同様に、農業高校生、農業者、農業関係者等を中心とした学習・見学対応にも積極的に取り組む。 ・広く一般市民向けのイベントとして、一般公開を開催し、研究成果の展示、講演会、育成品種の試食、実験・体験等の企画を通じて最新の農業技術に関する情報提供を行う。
A-1-4	33	元気な農業づくり推進協議会	上越市中山間地域元気な農業づくり推進協議会	A-1-4 C-1-2	継続	中山間地域等直接支払制度の活用により、農地は保全されているが、高齢化と後継者の不足から担い手不足が深刻である。 また、地域マネジメント組織の活動内容は、組織によって差があり、中山間地域等直接支払交付金の事務や、機械・農地の利用調整等の機能を果たしていない組織がある。	農地の保全と担い手育成を推進するとともに、地域マネジメント組織を核として中山間地域の活性化を行う。	中山間地域等直接支払交付金や市補助事業を活用し、農地保全と担い手育成を推進することにより、中山間地域農業の振興を図る。 また、地域マネジメント組織の代表者に集まっていただき、定期的に各種制度の情報提供や意見交換を実施する。 ○中山間地域農業生産振興事業、農産物等庭先集荷サービス事業、ふるさと玉手箱事業による支援（市補助事業） ○推進協議会、現地研修会等の開催
A-1-4	47	株式会社オアシス	MOG-MOGプロジェクト	A-1-1 A-1-4 A-2-1 A-2-2	継続	・農業分野の取組みとして、4月から11月の第2・第4土曜日に、上越妙高駅を会場に野菜ふるさと市「MOG-MOGフェア」を開催。春先は野菜収穫の時期には早く、また、近年、夏場の異常気象の影響を受けるなど、定期的に一定程度の質の野菜を確保することが難しいときもあった。 ・過去5年で13区の農業従事者の方たちと築いてきた、人脈や交換した情報から、上越市には、まだ活用できる人的・モノ的資源が眠っていると思う。それらを相互に結びつけ、活かせるような取組をしていきたい。	・年間を通じて安定的に販売できる、自然環境の影響を受けにくい商品の開発。 ・ホームページのさらなる活用とSNSなどを活用して、情報発信をする。 ・上越市の第3セクターの施設などと連携し、さまざまなイベントを企画することで、市内外から誘客を図る。 ・若者や高齢者、他業種との人脈を活かし、3セクターの施設や周辺の空き家を活用したUIJターンの取組み。	〈3～5年後の構想〉…現在のところ、大まかなイメージ（理想像）です。 ・上越市の第3セクターの施設と連携した新たな取組みに、市内外から多くの人々が訪れている。 ・UIJターンをした若者が働く場所があり、地域の活性化が図られている。 ・IT系の企業を主に、サテライトオフィスとして地元の施設が活用されている。 ・農業従事者のみなさんと連携して開発した地元料理があり、訪れた人々をもてなしている。 ・農業従事者の方々と季節や自然環境に左右されない商品開発が進み、販売されている。 ・そのための加工工場が整備され、雇用も生み出している。 ・外国からの観光客が多く訪れる、季節ごとに地域の資源を生かしたもてなしがある。 ・季節ごとに地域の資源（自然、文化、食など）を生かしたイベントが開催され、全国からファンが訪れる。 ・冬の雪を生かしたイベントや、スキー・スノボのファンに向けた企画があり、全国からファンが訪れる。 ・上記の情報を発信しながら、地域の特産品を販売できるネット環境が整っている。

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
A-1-4	50	上越ワーキング ネットワーク	農福連携	A-1-4 A-2-1 A-2-2	新規	農業者の担い手不足解消と障害者が働く場所の確保できることを目的とし、国の事業としても大きく注目を集めている。	上越市内の農業を守る手助けをしたい。(障害者の力で)	①障害者就労支援事業が独自に農業を行う。 ②地域の農業者の手助けとなるよう障害者就労支援施設が一部の農作業を委託実施する。 ③①、②を通じて障害者が地域の農業法人等で働けるようにしたい。
A-2-1	8	上越公共職業安定所	新規学校卒業予定者等に対する就職支援	A-2-1	継続	・高校卒業予定就職希望者については、地元企業の求人が増加している中、企業の周知及び就職後の職場定着を進める必要がある。 ・高校卒業段階で全体の概ね3/4程度の生徒が進学し、大半が地域外へ転出することから、その進学先を卒業する際に地元への就職を進める必要がある。	・高校卒業予定就職希望者の地元企業への就職促進 ・大学等卒業予定者の地元企業への就職促進	1. 高等学校卒業予定者に対する就職支援 ・高等学校と連携した個別就職相談の早期実施 ・応募前企業説明会の実施 ・高校学校と連携した就職後の職場定着支援の実施 2. 大学等卒業予定者に対する就職支援 ・大学等就職WEB提供サービスの活用 ・郷土就職ゼミナールの開催
A-2-1	9	上越公共職業安定所	U・Iターン希望者に対する就職支援	A-2-1 D-1-1	継続	・進学等により上越市から転出した方のうち地元へのUターン希望者へのサポートが必要。 ・将来労働力人口が減少する中で、企業の人材確保の観点からもU・Iターン希望者への就職支援が必要。	・上越市へのU・Iターン希望者の就職促進	1. U・Iターン希望者へ、にいがたUターン情報センターと連携した就職支援を実施 2. U・Iターン希望者に対して、ハローワークの全国ネットワークシステムを活用した就職支援の実施。
A-2-1	16	上越地域振興局 (企画振興部)	若年労働者定着支援事業	A-2-1	継続	アンケート調査結果によると、若年労働者の早期離職理由は「職場の人間関係」や「仕事上のストレス」が多い。 また、指導者は若年労働者のモチベーションを向上させる方法について悩んでいる。	上越地域における、若年労働者の早期離職防止	若年労働者を対象として、職場の人間関係を円滑にするためのコミュニケーションスキルやストレスへの対処法を学ぶセミナーを行うとともに、管理職・指導者等を対象とした「若手社員のモチベーションアップ研修」を行う。
A-2-2	42	日本政策金融公庫	高校生ビジネスプラン・グランプリ(創業・新事業への支援)	A-2-1 A-2-2	継続	活力ある日本を創り、地域を活性化するためには、次世代を担う若者の力が必要。	次世代を担う若者の創業マインドの向上	日本公庫では、次世代を担う若者の創業マインドの向上を図るため、平成25年度から全国の高校生を対象としたビジネスプランコンテストを開催しています。平成30年度の第6回グランプリには全国で396校が参加し、4,359件のエントリーがありました。希望のあった高校では、ビジネスプランや資金計画の作り方などについて出張授業を行っており、上越市内でも複数の高校で出張事業を行った実績があります。

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
A-2-2	47	株式会社オアシス	MOG-MOGプロジェクト	A-1-1 A-1-4 A-2-1 A-2-2	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・農業分野の取組みとして、4月から11月の第2・第4土曜日に、上越妙高駅を会場に野菜ふるさと市「MOG-MOGフェア」を開催。春先は野菜収穫の時期には早く、また、近年、夏場の異常気象の影響を受けるなど、定期的に一定程度の質の野菜を確保することが難しいときもあった。 ・過去5年で13区の農業従事者の方たちと築いてきた、人脈や交換した情報から、上越市には、まだ活用できる人的・モノ的資源が眠っていると思う。それらを相互に結びつけ、活かせるような取組をしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて安定的に販売できる、自然環境の影響を受けにくい商品の開発。 ・ホームページのさらなる活用とSNSなどを活用して、情報発信をする。 ・上越市の第3セクターの施設などと連携し、さまざまなイベントを企画することで、市内外から誘客を図る。 ・若者や高齢者、他業種との人脈を活かし、3セクの施設や周辺の空き家を活用したUIJターンの取組み。 	<ul style="list-style-type: none"> 〈3～5年後の構想〉…現在のところ、大まかなイメージ（理想像）です。 ・上越市の第3セクターの施設と連携した新たな取組みに、市内外から多くの方が訪れている。 ・UIJターンをした若者が働く場所があり、地域の活性化が図られている。 ・IT系の企業を主に、サテライトオフィスとして地元の施設が活用されている。 ・農業従事者のみなさんと連携して開発した地元料理があり、訪れた人々をもてなしている。 ・農業従事者の方々と季節や自然環境に左右されない商品開発が進み、販売されている。 ・そのための加工工場が整備され、雇用も生み出している。 ・外国からの観光客が多く訪れる、季節ごとに地域の資源を生かしたもてなしがある。 ・季節ごとに地域の資源（自然、文化、食など）を生かしたイベントが開催され、全国からファンが訪れる。 ・冬の雪を生かしたイベントや、スキー・スノボのファンに向けた企画があり、全国からファンが訪れる。 ・上記の情報を発信しながら、地域の特産品を販売できるネット環境が整っている。
A-2-2	50	上越ワーキングネットワーク	農福連携	A-1-4 A-2-1 A-2-2	新規	<p>農業者の担い手不足解消と障害者が働く場所の確保できることを目的とし、国の事業としても大きく注目を集めている。</p>	<p>上越市内の農業を守る手助けをしたい。（障害者の力で）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①障害者就労支援事業が独自に農業を行う。 ②地域の農業者の手助けとなるよう障害者就労支援施設が一部の農作業を委託実施する。 ③①、②を通じて障害者が地域の農業法人等で働けるようにしたい。
A-2-2	84	株式会社上越タイムス	高校2年生向け地元企業ガイド発行	A-2-1 D-1-1 C-3-2	新規	<p>高校生やいったん進学した学生をいかにふるさと上越の人材として受け入れることができるかは第一級の課題と考えるため。</p>		<p>高校2年生向けの地元優良企業情報を掲載したガイドブックの無料配布…第1期の上越市まち・ひと・仕事創生総合戦略の話し合いや議論では必ず、中高校生に対する人材還流の必要性が指摘されてきた。弊社はこの役割を果たせるのは弊社しかない、とふまえ上越3市の高校生と特別支援学校の生徒、並びに専門学校の学生、計27校の2937人に地元の優良企業を弊社で選出して掲載するガイドブックを製作し、全生徒たちに無料配布する。</p>
A-2-2	7	上越公共職業安定所	子育て女性等に対する再就職支援の推進	A-2-2 B-1-1	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・出産、育児等の理由で離職した方について、その希望等に応じ働きやすい環境を整備し、再就職支援を推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て女性等の就職促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○再就職支援の推進 ・子育て女性等に「マザーズコーナー」を周知し利用の促進を図る。 ・各種子育て支援サービス等に関する情報提供の実施。 ・求職者ニーズを踏まえた担当者制による就職支援の実施。 ・子育て女性等を対象としたセミナーの開催。 ・新潟県、上越市等の関係者による協議会を開催し、総合的な支援の実施。

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
A-2-2	24	上越信用金庫	上越市創業支援ネットワーク事業	A-2-2	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・課題となっている地域内の事業所の減少や生産人口の減少等を抑制するため、地域内の創業、第二創業を目指す対象者の方々にワンストップで対応ができるよう、今後も連携する各支援機関のネットワークを活かした創業しやすい環境を継続的に整備して行く必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回程度の創業支援セミナーの開催。 ・ネットワークを活かした各種創業支援に係る事業の促進。 ・連携機関の各種連携連絡会議の開催による事業の運営、管理。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当金庫が、上越市、上越商工会議所、日本政策金融公庫、地元金融機関5行（第四銀行・北越銀行・八十二銀行・大光銀行・新潟県信用組合）と連携し、「上越市創業支援ネットワーク」（平成25年8月組成）を運営。行政や経済団体、金融機関などの情報、ノウハウを集約し、創業しやすい環境を整備しながら創業を促進することで、雇用の機会の創出を踏まえた地域経済の活性化に結びつける。
A-2-2	26	上越信用金庫	M & A等業務に係る関連企業との連携事業	A-1-1 A-2-2	新規	<ul style="list-style-type: none"> ・当地域には後継者難や業績低迷から中小企業者等のM & A等のニーズが潜在的に多くあるにも関わらず、事業承継に関する多面的な相談の場も少なく、一人で自主廃業の道を選択される経営者が増加傾向にあり、廃業により、技術・顧客の承継はもとより、地域の働く場が縮小され、人口減少にも拍車をかけている現状から、事業承継は喫緊の重要課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携機関での勉強会、研修会の開催。 ・相互間の協力体制を活かした事業承継、M & Aに係る支援。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当金庫と地元の税理事務所2社の3者が、M & A等の案件の成約に向け、連携機関相互に協力をすることを目的とした業務提携に関する協定を結び、事業承継、M & Aに向けた支援について継続的にサポートを行うことで、地域経済の活性化を図る。
A-2-2	29	連合新潟上越地域協議会	働くことを軸とする安心社会の実現	A-2-2 B-1-1 B-2-3	継続	<p>私たちの日常は、多くの人たちが働き、互いに支え合うことで成り立っています。これまでの日本は、世界にも類をみない「雇用社会」を実現し、雇用を軸とした生活保障の仕組みを構築してきました。</p> <p>しかし、市場万能主義、ルールなき経済のグローバル化が進展するなかでさまざまな分野で格差が拡大し、人と人との絆、社会の持続性そのものが大きな危機に直面しています。</p>	<p>連合は、めざすべき社会像として「働くことを軸とする安心社会」を掲げ、「働くこと」に最も重要な価値を置き、自立と支え合いを基礎に、誰もが公正な労働条件のもと多様な働き方を通じて社会に参加できる社会の実現にむけた取り組みを推進しています。</p>	<p>具体的には、働く人の視点に立った5つの「安心の橋」を架ける運動に取り組むことで、活力にあふれ、自己実現に挑戦できる参加型社会を推進しています。あわせて、「働くことを軸とする安心社会」を支える基盤構築のために、地方分権を進め、公平な負担にもとづく持続可能な社会の構築をめざしています。</p> <p>①働くかたちを自由にする橋(ライフステージに応じた、柔軟でダイセレントな働き方を整備する。)</p> <p>②失業と雇用をつなぐ橋(職業紹介、職業訓練、所得保障の一体的支援で、スムーズな復職をサポートする。)</p> <p>③家族と雇用をつなぐ橋(子育てや介護を社会全体で支え、男女平等参画社会を構築する。)</p> <p>④教育と雇用をつなぐ橋(「貧困の連鎖」を断ち切り、学ぶ場から働く場へ円滑に移行できる制度を確立する。)</p> <p>⑤退職と雇用をつなぐ橋(高齢者の知識や経験を社会に活かし、老後の安心を保障する制度を構築する。)</p>

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
A-2-2	30	連合新潟上越地域協議会	労働何でも相談ダイヤル	A-2-2 B-1-1	継続	20数年前は、賃金関係と解雇（雇用関係）、不利益変更（労働契約関係）の3つで相談内容のほぼ9割を占めていた。いずれも、法律などに照らして解決の見通しがつくケースだ。ところが、この10年でその構図が大きく変わった。差別、労働時間関係、退職関係、つまりパワハラやマタハラ、長時間労働、高齢者雇用に関する相談が急増している。」	通年にわたる労働相談窓口の設置。	「なんでも労働相談ダイヤル」（フリーダイヤル0120-154-052）は、全ての労働者の悩みや様々な労働の問題（解雇・労働条件切り下げ・賃金不払い・有給休暇・ハラスメント等）の相談にのって、企業の一方的な都合で労働者の権利・利益が損なわれることを防ぐ。
A-2-2	37	株式会社大光銀行	—	A-1-1 A-2-2	継続	・地方創生は、長期的視点に立って取り組む必要があることから、第1期総合戦略の事業を継続して行っていく。 ・地域社会、経済の活性化には、地域金融機関が果たす役割は重要であることから、総合戦略実現に向け積極的に関与していく。	各政策分野の基本目標の達成	「第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の実現に向けて、各種金融支援、非金融サービス、情報提供等の多面的な商品・サービスを提供する。 <実施方法> ・創業者や地域企業への金融支援、非金融サービス、情報提供等 ・クラウドファンディングを活用した地域産品のPR ・「空き家対策ローン」（空き家リフォームローン、空き家解体ローン）の活用 ・「リバースモーゲージローン」の活用 ・「医療・介護・福祉」分野、「農業・六次産業化」分野、「環境・エネルギー」分野、「創業・第二創業」分野、「事業継承・M&A」分野への支援 ・ビジネスマッチング、商談会等の販路開拓の機会提供 ・各種セミナーの開催による情報提供 ・各部専門機関の紹介 等
A-2-2	38	株式会社富山第一銀行	仕事づくり事業、就労支援事業	A-1-1 A-2-2	継続	取引先企業の実態把握	ソリューション営業の実施	・事業計画の策定支援 ・各種専門家派遣による支援 ・積極的な補助金制度の活用 ・当行ネットワークを活用したビジネスマッチング推進
A-2-2	39	株式会社北越銀行	上越市まち・ひと・しごと創生推進協議会「しごとづくり部会」	A-1-1 A-2-2	新規	事業所廃業による雇用機会の喪失	地元金融機関として継続企業（ゴーイング・コンサーン）の一助となり、雇用機会の創出、維持を目指す。	・創業先、第二創業先への支援による雇用機会の創出。具体的には、①事業計画作成支援②ビジネスマッチングや商談会による商談成約③専門家派遣ならびに専門家相談④補助金のサポート⑤事業資金の融資 等 ・後継者不在の事業所等に対し、事業継承、M&Aの手法にて継続企業支援を図り、雇用を維持。

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
A-2-2	40	新潟県信用組合	地域産業支援のためのネットワーク強化	A-1-1 A-2-2	継続	・創業支援先の創業後の事業継続状況の検証 ・創業後の経営支援	創業支援数、創業（実現）数について現状を上回る。	○創業支援 ・上越市創業支援ネットワークへの参画 ・「けんしん創業アカデミー」の開催 ・「創業・新事業ローン」による金融支援 ・「地域活性化資金」による金融支援 ○事業継承支援 ・事業継承、M&Aマッチングサービス ○その他総合戦略の政策に関する取組 ・住宅ローンの定住支援割引制度 ・各種ローンの子育て支援金利割引制度 ・定期積金の子育て支援金利上乗せ制度 ・飲食業、旅館業等観光に係る業種専用融資「地域のチカラ」による金融支援 ・「謙信空店舗活用支援資金」による街の活性化
A-2-2	42	日本政策金融公庫	高校生ビジネスプラン・グランプリ（創業・新事業への支援）	A-2-1 A-2-2	継続	活力ある日本を創り、地域を活性化するためには、次世代を担う若者の力が必要。	次世代を担う若者の創業マインドの向上	日本公庫では、次世代を担う若者の創業マインドの向上を図るため、平成25年度から全国の高校生を対象としたビジネスプランコンテストを開催しています。平成30年度の第6回グランプリには全国で396校が参加し、4,359件のエントリーがありました。希望のあった高校では、ビジネスプランや資金計画の作り方などについて出張授業を行っており、上越市内でも複数の高校で出張事業を行った実績があります。
A-2-2	44	日本政策金融公庫	事業創生プロジェクト（創業・新事業への支援）	A-2-2	継続	創業の伸び悩み	経済の活性化、雇用の創出	日本公庫では、「新規開業資金」などのご融資を通じて、あらたに事業を始める方や事業開始後間もない方のお手伝いをさせていただきます。地元での開業企業数を増加させ、地域の雇用に創出していきます。具体的には、上越市創業ネットワークのメンバーとして、創業セミナーの開催や公庫創業サポートデスク等を通じて、様々な情報提供や提案と創業を志す方のバックアップを行っていきます。
A-2-2	47	株式会社オアシス	MOG-MOGプロジェクト	A-1-1 A-1-4 A-2-1 A-2-2	継続	・農業分野の取組みとして、4月から11月の第2・第4土曜日に、上越妙高駅を会場に野菜ふるさと市「MOG-MOGフェア」を開催。春先は野菜収穫の時期には早く、また、近年、夏場の異常気象の影響を受けるなど、定期的に一定程度の質の野菜を確保することが難しいときもあった。 ・過去5年で13区の農業従事者の方たちと築いてきた、人脈や交換した情報から、上越市には、まだ活用できる人的・モノ的資源が眠っていると思う。それらを相互に結びつけ、活かせるような取組をしていきたい。	・年間を通じて安定的に販売できる、自然環境の影響を受けにくい商品の開発。 ・ホームページのさらなる活用とSNSなどを活用して、情報発信をする。 ・上越市の第3セクターの施設などと連携し、さまざまなイベントを企画することで、市内外から誘客を図る。 ・若者や高齢者、他業種との人脈を活かし、3セクの施設や周辺の空き家を活用したUIJターンの取組み。	〈3～5年後の構想〉…現在のところ、大まかなイメージ（理想像）です。 ・上越市の第3セクターの施設と連携した新たな取組みに、市内外から多くの方が訪れている。 ・UIJターンをした若者が働く場所があり、地域の活性化が図られている。 ・IT系の企業を主に、サテライトオフィスとして地元の施設が活用されている。 ・農業従事者のみなさんと連携して開発した地元料理があり、訪れた人々をもてなしている。 ・農業従事者の方々と季節や自然環境に左右されない商品開発が進み、販売されている。 ・そのための加工工場が整備され、雇用も生み出している。 ・外国からの観光客が多く訪れる、季節ごとに地域の資源を生かしたもてなしがある。 ・季節ごとに地域の資源（自然、文化、食など）を生かしたイベントが開催され、全国からファンが訪れる。 ・冬の雪を生かしたイベントや、スキー・スノボのファンに向けた企画があり、全国からファンが訪れる。 ・上記の情報を発信しながら、地域の特産品を販売できるネット環境が整っている。

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
A-2-2	50	上越ワーキング ネットワーク	農福連携	A-1-4 A-2-1 A-2-2	新規	農業者の担い手不足解消と障害者が働く場所の確保できることを目的とし、国の事業としても大きく注目を集めている。	上越市内の農業を守る手助けをしたい。(障害者の力で)	①障害者就労支援事業が独自に農業を行う。 ②地域の農業者の手助けとなるよう障害者就労支援施設が一部の農作業を委託実施する。 ③①、②を通じて障害者が地域の農業法人等で働けるようにしたい。
B-1-1	7	上越公共職業安定所	子育て女性等に対する再就職支援の推進	A-2-2 B-1-1	継続	・出産、育児等の理由で離職した方について、その希望等に応じ働きやすい環境を整備し、再就職支援を推進する必要がある。	・子育て女性等の就職促進	○再就職支援の推進 ・子育て女性等に「マザーズコーナー」を周知し利用の促進を図る。 ・各種子育て支援サービス等に関する情報提供の実施。 ・求職者ニーズを踏まえた担当者制による就職支援の実施。 ・子育て女性等を対象としたセミナーの開催。 ・新潟県、上越市等の関係者による協議会を開催し、総合的な支援の実施。
B-1-1	29	連合新潟上越地域協議会	働くことを軸とする安心社会の実現	A-2-2 B-1-1 B-2-3	継続	私たちの日常は、多くの人たちが働き、互いに支え合うことで成り立っています。これまでの日本は、世界にも類をみない「雇用社会」を実現し、雇用を軸とした生活保障の仕組みを構築してきました。 しかし、市場万能主義、ルールなき経済のグローバル化が進展するなかでさまざまな分野で格差が拡大し、人と人との絆、社会の持続性そのものが大きな危機に直面しています。	連合は、めざすべき社会像として「働くことを軸とする安心社会」を掲げ、「働くこと」に最も重要な価値を置き、自立と支え合いを基礎に、誰もが公正な労働条件のもと多様な働き方を通じて社会に参加できる社会の実現にむけた取り組みを推進しています。	具体的には、働く人の視点に立った5つの「安心の橋」を架ける運動に取り組むことで、活力にあふれ、自己実現に挑戦できる参加型社会を推進しています。あわせて、「働くことを軸とする安心社会」を支える基盤構築のために、地方分権を進め、公平な負担にもとづく持続可能な社会の構築をめざしています。 ①働くかたちを自由にする橋(ライフステージに応じた、柔軟でディーセントな働き方を整備する。) ②失業と雇用をつなぐ橋(職業紹介、職業訓練、所得保障の一体的支援で、スムーズな復職をサポートする。) ③家族と雇用をつなぐ橋(子育てや介護を社会全体で支え、男女平等参画社会を構築する。) ④教育と雇用をつなぐ橋(「貧困の連鎖」を断ち切り、学ぶ場から働く場へ円滑に移行できる制度を確立する。) ⑤退職と雇用をつなぐ橋(高齢者の知識や経験を社会に活かし、老後の安心を保障する制度を構築する。)
B-1-1	30	連合新潟上越地域協議会	労働何でも相談ダイヤル	A-2-2 B-1-1	継続	20数年前は、賃金関係と解雇(雇用関係)、不利益変更(労働契約関係)の3つで相談内容のほぼ9割を占めていた。いずれも、法律などに照らして解決の見通しがつくケースだ。ところが、この10年でその構図が大きく変わった。差別、労働時間関係、退職関係、つまりパワハラやマタハラ、長時間労働、高齢者雇用に関する相談が急増している。」	通年にわたる労働相談窓口の設置。	「なんでも労働相談ダイヤル」(フリーダイヤル0120-154-052)は、全ての労働者の悩みや様々な労働の問題(解雇・労働条件切り下げ・賃金不払い・有給休暇・ハラスメント等)の相談にのって、企業の一時的な都合で労働者の権利・利益が損なわれることを防ぐ。

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
B-1-1	60	NPO法人マミーズ・ネット	子育て・子どもの育ちに関する学習・啓発事業	B-2-2 B-1-1	継続	少子化が進み、社会の中で子育て世代が少数派となっている。地域全体で子育てを支える環境が必要とされている。事業を行う上での課題は、子育て中の保護者が参加しやすく、皆に関心をもって参加してもらうために、著名な講師を招く際の講師謝金や、一時保育ルームを設ける際の資金が必要なこと。	子育て中の保護者および社会全体として、ワークライフバランスを念頭におき、男性も女性も、仕事・子育て・社会活動を、本人の希望するバランスでできること。	●子育て中の人や、子育て支援に関わる人、地域の人等に向けての催し、「子育てわいわいフォーラム」を実施。 ●ワークライフバランスの視点をもった、子育て・子育て支援に関する講師の派遣
B-2-1	3	えちご上越農業協同組合	婚活イベントの実施	B-2-1	継続	独身男女の未婚化・晩婚化により、少子高齢化が進む中、出会いの場を提供するイベントを企画するが女性の参加者が少ない。	イベント年4回企画	・独身男女の出会いの場を提供するイベントを企画・実施。 地元野菜を使用したBBQや地産地消の料理実習などを企画する。(食と農に関する情報提供も併せて行う) 独身男女の出会いの場としてマッチングも行う。
B-2-1	54	平安セレモニー株式会社	ファーレン婚活事業	B-2-1	継続	人口減少や結婚をしない方が増えている社会背景に対応するため、お見合い事業・婚活支援を行うことにより、結婚人口の創出を図り、その後の出産、人口増に貢献する。	年間成婚数4組	お見合いパーティー 月3回×12か月=36回開催 企業対企業パーティー 40人程度規模 1回 企業へのチラシ配布による独身者への入会アプローチの実施 個別のお見合い実施
B-2-1	55	上越商工会議所(女性会)	めぐりあい事業(婚活事業)	B-2-1	継続	昨年度は、2度婚活イベントを開催し、会員事業所より多くの独身従業員から参加いただいたが、男女比が男性に偏ってしまい、女性の申し込みが少ないなどの課題も見られた。また、イベント後のアンケートでは、「全員と話す時間がなかった」「会話を促す内容が無かった」などの意見が見られ、出会いイベントとしては、まだまだ改善の余地が見られる。	当会としては、より多くの会員企業が「婚活」に興味をもち、自社の従業員が婚活イベント等へ参加しやすいう環境を整えてもらうことが第一の目標である。そして、多くの従業員にイベントに参加してもらい、仕事・プライベート両面で、新たな仲間を作ってもらえることが肝要であり、そこから「結婚」へ繋がっていければなお良しと考えている。※カップル成立数には現状こだわっていない。	①婚活講演会(本年度の新規事業) ⇒会員企業を対象とした、婚活の啓発活動のための講演会。 ○時期 10月～11月の予定 ○場所 上越商工会議所又は女性会会員で講演会場を持つ事業所 ○内容 昨今の婚活事情(特に県内)について講師より説明してもらい、下記記載のイベントへ独身従業員を送り出してもらうための下地づくりを行う。 ②異業種交流会(昨年度からの継続事業) ⇒会員企業従業員を対象とした異業種交流会。 ○時期 1月の予定 ○場所 未定(候補はあるが確認中) ○内容 交流パーティー形式で実施予定。その他詳しい内容については、今後女性会役員で協議して決定。
B-2-2	13	上越地域振興局(健康福祉環境部)	生涯を通じた女性の健康支援事業	B-2-2		女性特有の身体的特徴による心身の悩みや課題に対応するため、健康づくりの普及啓発、相談体制の構築を図る。	女性が健やかに妊娠・出産・育児期から更年期を迎えられるようにする。	○女性が抱える様々な健康に関する相談の窓口(電話及び来所) ○普及啓発 ・ホームページ、市の広報、地元新聞等を通じて正しい知識の普及啓発 ○検討会を開催し、関係機関のネットワークを構築するとともに事業を実施する

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
B-2-2	14	上越地域振興局 (健康福祉環境部)	不妊に悩む方への特定治療 支援事業	B-2-2		高額な医療費がかかる特定不妊治療に対し、経済的な負担軽減を図る。	子どもを望んでいる夫婦に対して、経済的な負担を軽減し、安心して妊娠が迎えられるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ○助成の対象となる方 <ul style="list-style-type: none"> ・特定不妊治療を受けた法律上の婚姻をしている夫婦であって、次の(1)～(3)の全てに該当する場合。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 特定不妊治療以外の治療法によっては、妊娠の見込みがないか又は極めて少ないと医師に診断された方 (2) 夫又は妻のいずれか一方又は両方が新潟県内(新潟市を除く)に居住している方 (3) 治療期間の初日における妻の年齢が43歳未満である方 ○対象となる治療 <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県知事が指定した医療機関で行う体外受精及び顕微授精(凍結胚移植を含む。)です。 医師の判断に基づき、やむを得ず治療を中止した場合についても、卵胞が発育しない等により卵子採取以前に中止した場合を除き、助成の対象となります。 ○申請の方法など <ul style="list-style-type: none"> ・助成内容や回数及び申請書類等は、上越地域振興局健康福祉環境部 地域保健課にお問い合わせの上、申請してください。郵送による申請も受け付けています。
B-2-2	15	上越地域振興局 (健康福祉環境部)	こころと身体の健康相談	B-2-2		妊娠・出産・育児をはじめ、ライフサイクルの中で、様々なこころと身体の不調を抱えることがある。様々な健康不安に関する相談窓口であり、病気やその予防について、正しい知識の提供、日常生活へのアドバイスや保健指導を行っている。	住民が抱えるこころと身体の健康不安に対して、保健師・管理栄養士・精神保健福祉相談員等が相談に応じることで、不安の軽減や解消を図る。	<ul style="list-style-type: none"> こころと身体の健康不安に関わる相談を無料で受けています。 ○電話相談 <ul style="list-style-type: none"> ・対応時間：平日8時30分～17時15分 ・電話番号：025-524-6132(地域保健課直通) ○来所相談 <ul style="list-style-type: none"> ・対応時間：平日8時30分～17時15分 ・面接での相談対応は、原則として、事前の予約が必要です。
B-2-2	20	新潟県立看護大学	市民公開講座及び上教大との連携公開講座	B-2-2 B-2-3 C-2-1 D-3-2	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・医療分野の著名な知識人や先駆的な取り組みを行っている実践者を招いた市民公開講座を開催している。 ・本学と上越教育大学は地域社会に貢献することを目的として協定を締結し、お互いの大学が持つ資源を活用した公開講座を開催している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護・医療・福祉・教育分野の研究や実践に関する新しい知見やトピックスについて講座を開催し、地域住民に学習の機会を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> (現時点で事業内容は未定のため、令和元年度の内容を記載する。) ・市民公開講座 「心を元気にする4つのステップ」をテーマに、著名な学識者を講師に招く。 参加費無料、参加者150人規模 ・看護大・上教大連携公開講座 「長寿の秘訣！健康で豊かに生きる」をテーマに、両大学の教員各2名が講師を務める。 参加費無料、参加者150人規模

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
B-2-2	21	新潟県立看護大学	いきいきサロン	B-2-2 B-2-3 C-2-1 D-3-2	継続	健康に関心のある地域の住民と、看護や健康等の専門家との交流の場として、平成21年度から開催している。	地域住民が気軽に大学に足を運び、健康について関心を寄せ、学び合う場を目指す。	(現時点で事業内容は未定のため、令和元年度の内容を記載する。) 全5テーマで実施する。 ・心と体の健康のための食事～美味しく食べて健康を～ ・歯周病を知ろう ・がんと「緩和ケア」ーからだところの痛みを和らげるケアー ・高齢者のうつ予防と家族の対応 ・流行性感染症にかかりたくない 講師は本学教員の他、医療機関院長等が務める。 参加費無料、参加者各150人規模
B-2-2	22	新潟県立看護大学	どこでもカレッジ	B-2-2 B-2-3 C-2-1 D-3-2	継続	現職の看護職・介護職はもちろん、潜在看護職へのリカレント教育を推進する活動を実施している。	新潟県内、特に上越地域の看護職の総合的な資質向上を目指し、様々な学習及び研修の機会を提供することにより、県民のヘルスケアの充実を目指す。加えて、卒業生の卒業後教育も視野に入れた看護職の復職支援を行う。	(現時点で事業内容は未定のため、令和元年度の内容を記載する。) どこでもカレッジ公開講座 ・最新トピックス 1コース ・看護研究支援 6コース ・看護実践スキルアップ 4コース 講師は本学教員の他、医療機関認定看護師等が務める。 参加費無料～2,000円、参加者各10人～80人規模 バーチャルカレッジ ・インターネットを利用し、本プロジェクトホームページ上へ掲載された動画等の教材を用いて学修することができるプログラム。受講者の学びの場や時間を限定せず、インターネット環境さえあればいつでもどこでも繰り返し学ぶことができ、自分のペースで学習することができる。 ・参加費無料、ただし会員登録が必要
B-2-2	23	新潟県立看護大学	出前講座	B-2-2 B-2-3 C-2-1 D-3-2	継続	平成26年度より地域貢献の一環として、教育機関、市民団体及び企業等の求めに応じて、本学教員が外向いて講義等を行う出前講座を実施している。	・本学教員が地域に向くことで大学を身近に感じてもらう ・本学教員の研究成果等を地域へ還元する ・地域住民への生涯学習の機会を提供する	(現時点で事業内容は未定のため、令和元年度の内容を記載する。) 一般向け全12テーマ ・いざというときに役立つ“子どものホームケア” ・働き盛りの方々へ 少し生活を見直してみませんか？(食事編) ・認知症のこと知りたい 他 看護職・介護職向け全4テーマ ・看護職・介護職のための緩和ケア講座 他 講師は本学教員、講師料及び謝金等は不要、旅費を負担していただく。 実施件数37件、参加者延べ1,150人(平成30年度実績)

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
B-2-2	27	上越信用金庫	各種ローン等の円滑な提供	B-2-2 D-1-1	継続	・若い世代の経済的安定、結婚、出産、子育てへの支援、仕事と生活の調和（ライフワークバランス）を図るため、金融機関の本業を意識した課題解決支援が必要とされる。	・通年を通じた、仕事と生活の調和（ライフワークバランス）に沿った各種ローン（カードローン、マイカーローン、教育ローン、プライダルローン、住宅ローン）の提供。	・経済負担を考慮した金利優遇。 ・地域に就職する若年層、地元出身の新社会人、Uターン、Iターンへの新社会人や移住者（移住希望者）への支援。 ・あらゆる場面での円滑な資金提供を支援し、結婚、出産、子育てしやすい環境の整備を行う。
B-2-2	45	日本政策金融公庫	子育て支援プロジェクト (地域のお子さまの就学支援事業)	B-2-2	継続	教育費負担の重さ	教育費による家計への負担の軽減	日本公庫の「国の教育ローン」は、「家庭の経済的負担の軽減」及び「教育機会の均等」を目的として、昭和54年に創設されました。平成30年度の利用件数は全国で約12万件です。日本公庫では、昨今の厳しい経済状況において多くの大学、専修学校、高校などの進学・在学されるお子さまをお持ちのご家庭の方を対象に融資による就学面の支援を行います。
B-2-2	56	上越助産師会	母子保健事業	B-2-2	継続	上越市全体の人口減少と出生数の減少により、事業のサービスを受ける対象者が減少している中、ハイリスクな事例が増えている。このような状況下で、助産師会の会員数を確保していくのが課題である。	助産師会の会員数を確保しつつ、現状のサービスを維持するとともに、研修会等に積極的に参加し資質の向上に努める。	・助産師会独自の重点事業（助産師活動のPR） ①上越市四季の縁日…秋色縁日にブース参加 ②妙高市出会い～子育て応援フェア参加 ・上越市母子保健事業（委託事業） ・妙高市母子保健事業（委託事業） ・性の健康講座（委託事業） ・その他 個人開業で沐浴、乳房ケア、各種研修会・各種講座の講師など
B-2-2	58	NPO法人マミーズ・ネット	保育コーディネート事業	B-2-2	継続	乳幼児を育てている人が講座やイベント等に安心して参加するためには短期的な保育が必要となる。そのため保育ルームを設置したいと考える主催者も多い。しかし、一時的なものである場合が多いため、対応できる組織がすくない。そこで、子育てを手伝おうという地域の力を活かし、安全な短時間保育ができるように、保育グループを形成してきた。第1期の期間内で実施した際の課題としては、安全な保育にはある程度の費用が必要となることが理解されないこと、また十分に理解していてもその費用が用意できない主催者が多いことがあげられる。	地域のために何か力を貸したいという人たちの思いを、保育ボランティアという形で実現し、力を発揮してもらええる仕組みづくりを強化していく。	●保育ルームの設置については企業・行政・団体等からの依頼により随時実施 ●保育ボランティアを集め、研修機会を設けていく。 ●保育ボランティアが地域人材として活躍できるよう支援する。

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
B-2-2	59	NPO法人マミーズ・ネット	子育て世代の交流促進事業	B-2-2	継続	<p>子育て世代は、地域を作り上げていく貴重な人材であり、子どもを育て始めたことで地域社会と出会い、役割の大切さに気付くことが多い。中でも子育てサークルの運営により自助の力の大切さを実感することができ、わが子の幸せのためには地域の子どもも幸せであることが大切だと気が付くことができる。</p> <p>しかし少子化の進行は進むばかりである。これは第1期総合戦略時からというよりも、1990年代から継続しての問題ととらえている。子育て当事者の自助グループが自然発生的に形成されることはますます難しくなっている。身近に同じ年頃の子どもを育てている家族がいない、女性が職場復帰していく時期が早まっているなどの要因が考えられる。</p>	<p>子育て世代の自助グループが活動継続できるように支援していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●育児サークルの活動を促進するための情報交換・連携を目的とした「育児サークルお茶会」の実施 ●育児サークルのネットワーク化を図る
B-2-2	60	NPO法人マミーズ・ネット	子育て・子どもの育ちに関する学習・啓発事業	B-2-2 B-1-1	継続	<p>少子化が進み、社会の中で子育て世代が少数派となっている。地域全体で子育てを支える環境が必要とされている。事業を行う上での課題は、子育て中の保護者が参加しやすく、皆に関心をもって参加してもらうために、著名な講師を招く際の講師謝金や、一時保育ルームを設ける際の資金が必要なこと。</p>	<p>子育て中の保護者および社会全体として、ワークライフバランスを念頭におき、男性も女性も、仕事・子育て・社会活動を、本人の希望するバランスでできること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●子育て中の人や、子育て支援に関わる人、地域の人等に向けての催し、「子育てわいわいフォーラム」を実施。 ●ワークライフバランスの視点をもった、子育て・子育て支援に関する講師の派遣
B-2-2	61	NPO法人マミーズ・ネット	子育て情報の発信事業	B-2-2 B-2-5	継続	<p>昨今、インターネットでの情報はあふれているが、本当に必要な情報を選択して取得することは難しい。情報が届かないために、地域とのつながりをつくりにくい人も多い。事業を行う上での課題は、情報収集・確認には手間と時間がかかり、人件費がかなり必要になること。紙媒体として発行する際に広告協賛を集めているが、集まりにくいこと。</p>	<p>子育て世代が、上越は楽しく子育てしやすい地域であると感じてもらうこと。事業に子育て世代が関り、地域の核となる人材となること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●フリーペーパー「じょうえつ子育て応援誌With Kids NEWS」の発行 ・乳幼児を子育て中の保護者が、自ら企画や取材に関わり、身近な地域の情報を集めた子育て応援誌を年に4回発行発行する。 ●親子向けイベント情報の収集と発信 ・乳幼児を子育て中の保護者が、実際にイベントに参加した情報を持ち寄ったり、新たなイベントの情報を持ち寄る会を開催する。 ・イベント情報を収集し、親子向けイベントカレンダーの製作(毎月)、コミュニティFM局への情報発信(毎週)を行う。

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
B-2-2	62	NPO法人マミーズ・ネット	子育て親子の居場所づくり事業	B-2-2	継続	<p>少子化のため、地域で同じような年齢の子どもを育てる保護者同士が出会い、支え合う関係づくりを自然に形成することは難しい。事業を行う上での課題は、運営にかかる費用を賄えるような参加費を、子育て中の若い世代から徴収すると、参加できる人が限られてしまうため、運営資金が課題である。</p>	<p>保護者同士が出会い、支え合える関係となり、子育てしやすい環境を整えること。地域のために利他的な動きができること。</p>	<p>●乳幼児を子育て中の親が、親子で交流し、互いに支え合える関係づくりの場として、「子育ての応援ひろば ふう」を週に2回開設する。</p>
B-2-2	63	商工会議所政策委員会（大島G）	潤いとやすらぎのまちづくり事業	C-1-1 B-2-2	継続	<p>大島グループの「暮らし・福祉エリア」を担当し、子供から高齢者までの安心なライフステージを整備し、首都圏高齢者等の移住促進、地域などの子育て・介護等の総合サービスを提供することにあつた。期間中に「企業主導型保育事業」を上越市に初めて完成させたが、想定以上の利用者があり増床も検討しなければならない。</p>	<p>第2期総合戦略期間の目標として ①サンクス高田第4号館の建設計画策定 ⇒ R2年度予定 ③グループホーム建設構想策定 ⇒ R4年度予定 ②ベビーサンクスすくすく寺町の増床計画策定 ⇒ R3年度予定</p>	<p>1、サンクス高田第4号館建築計画策定事業 ○現在の第1号館～第3号館までの総合福祉施設は、満館状態で高齢者が微増する中で新たな施設が必要視されている。更に高田地内の中心地にあり核家族化と超高齢化が進行する中で介護施設の要望が高い。 ○構想では、 ①1FはDS50人規模。 ②2Fはショートステイ20人規模 ③3Fは介護付有料老人ホーム18人規模 ④4F～6Fは高級高齢者住宅15人×3＝45人規模 ○建設年度は、R3年度～4年度</p> <p>2、グループホーム建設構想策定事業 ○中心市街地においてグループホームの需要が多くあり、サンクス高田の利用者の中にも対象者がおり、家族からは必要性を訴えられている。この現状からサンクス高田付近に建設計画を構想する。19人規模。</p> <p>3、企業主導型保育園増床計画策定事業 ○H29年度～30年度に掛けて新築した企業保育園は、3ヶ年財政計画を上回る利用者があり、0歳児～1歳児の希望が特に多く、定員をはるかに超えている。このままでは総定員48人を超えることが明らかであり新たに3歳児～5歳児の増床計画を策定する。 ○構想では、①R3年度 増床計画策定 ②R4年度 建設年度 現状から早まることはありうる。</p>

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
B-2-3	20	新潟県立看護大学	市民公開講座及び上教大との連携公開講座	B-2-2 B-2-3 C-2-1 D-3-2	継続	・医療分野の著名な知識人や先駆的な取り組みを行っている実践者を招いた市民公開講座を開催している。 ・本学と上越教育大学は地域社会に貢献することを目的として協定を締結し、お互いの大学が持つ資源を活用した公開講座を開催している。	・看護・医療・福祉・教育分野の研究や実践に関する新しい知見やトピックスについて講座を開催し、地域住民に学習の機会を提供する。	(現時点で事業内容は未定のため、令和元年度の内容を記載する。) ・市民公開講座 「心を元気にする4つのステップ」をテーマに、著名な学識者を講師に招く。 参加費無料、参加者150人規模 ・看護大・上教大連携公開講座 「長寿の秘訣！健康で豊かに生きる」をテーマに、両大学の教員各2名が講師を務める。 参加費無料、参加者150人規模
B-2-3	21	新潟県立看護大学	いきいきサロン	B-2-2 B-2-3 C-2-1 D-3-2	継続	健康に関心のある地域の住民と、看護や健康等の専門家との交流の場として、平成21年度から開催している。	地域住民が気軽に大学に足を運び、健康について関心を寄せ、学び合う場を目指す。	(現時点で事業内容は未定のため、令和元年度の内容を記載する。) 全5テーマで実施する。 ・心と体の健康のための食事～美味しく食べて健康を～ ・歯周病を知ろう ・がんと「緩和ケア」－からだどころの痛みを和らげるケア－ ・高齢者のうつ予防と家族の対応 ・流行性感染症にかかりたくない 講師は本学教員の他、医療機関院長等が務める。 参加費無料、参加者各150人規模
B-2-3	22	新潟県立看護大学	どこでもカレッジ	B-2-2 B-2-3 C-2-1 D-3-2	継続	現職の看護職・介護職はもちろん、潜在看護職へのリカレント教育を推進する活動を実施している。	新潟県内、特に上越地域の看護職の総合的な資質向上を目指し、様々な学習及び研修の機会を提供することにより、県民のヘルスケアの充実を目指す。 加えて、卒業生の卒業後教育も視野に入れた看護職の復職支援を行う。	(現時点で事業内容は未定のため、令和元年度の内容を記載する。) どこでもカレッジ公開講座 ・最新トピックス 1コース ・看護研究支援 6コース ・看護実践スキルアップ 4コース 講師は本学教員の他、医療機関認定看護師等が務める。 参加費無料～2,000円、参加者各10人～80人規模 バーチャルカレッジ ・インターネットを利用し、本プロジェクトホームページ上へ掲載された動画等の教材を用いて学修することができるプログラム。受講者の学びの場や時間を限定せず、インターネット環境さえあればいつでもどこでも繰り返し学ぶことができ、自分のペースで学習することができる。 ・参加費無料、ただし会員登録が必要

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
B-2-3	23	新潟県立看護大学	出前講座	B-2-2 B-2-3 C-2-1 D-3-2	継続	平成26年度より地域貢献の一環として、教育機関、市民団体及び企業等の求めに応じて、本学教員が出向いて講義等を行う出前講座を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ・本学教員が地域に出向くことで大学を身近に感じてもらう ・本学教員の研究成果等を地域へ還元する ・地域住民への生涯学習の機会を提供する 	<p>(現時点で事業内容は未定のため、令和元年度の内容を記載する。)</p> <p>一般向け全12テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いざというときに役立つ“子どものホームケア” ・働き盛りの方々へ 少し生活を見直してみませんか？(食事編) ・認知症のこと知りたい 他 <p>看護職・介護職向け全4テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護職・介護職のための緩和ケア講座 他 <p>講師は本学教員、講師料及び謝金等は不要、旅費を負担していただく。 実施件数37件、参加者延べ1,150人(平成30年度実績)</p>
B-2-3	29	連合新潟上越地域協議会	働くことを軸とする安心社会の実現	A-2-2 B-1-1 B-2-3	継続	<p>私たちの日常は、多くの人が働き、互いに支え合うことで成り立っています。これまでの日本は、世界にも類をみない「雇用社会」を実現し、雇用を軸とした生活保障の仕組みを構築してきました。</p> <p>しかし、市場万能主義、ルールなき経済のグローバル化が進展するなかでさまざまな分野で格差が拡大し、人と人との絆、社会の持続性そのものが大きな危機に直面しています。</p>	<p>連合は、めざすべき社会像として「働くことを軸とする安心社会」を掲げ、「働くこと」に最も重要な価値を置き、自立と支え合いを基礎に、誰もが公正な労働条件のもと多様な働き方を通じて社会に参加できる社会の実現にむけた取り組みを推進しています。</p>	<p>具体的には、働く人の視点に立った5つの「安心の橋」を架ける運動に取り組むことで、活力にあふれ、自己実現に挑戦できる参加型社会を推進しています。あわせて、「働くことを軸とする安心社会」を支える基盤構築のために、地方分権を進め、公平な負担にもとづく持続可能な社会の構築をめざしています。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①働くかたちを自由にする橋(ライフステージに応じた、柔軟でディーセントな働き方を整備する。) ②失業と雇用をつなぐ橋(職業紹介、職業訓練、所得保障の一体的支援で、スムーズな復職をサポートする。) ③家族と雇用をつなぐ橋(子育てや介護を社会全体で支え、男女平等参画社会を構築する。) ④教育と雇用をつなぐ橋(「貧困の連鎖」を断ち切り、学ぶ場から働く場へ円滑に移行できる制度を確立する。) ⑤退職と雇用をつなぐ橋(高齢者の知識や経験を社会に活かす、老後の安心を保障する制度を構築する。)
B-2-4	4	えちご上越農業協同組合	子ども(保護者含む)への食農教育・講座の実施	B-2-4	継続	<p>子どもの食の偏り、朝食の欠食など生活習慣病の低年齢化など、健康への影響が懸念される中、食だけでなく農業と結びつけることにより健全な育成を目指す。</p>	<p>親子教室(ちゃぐりん道場)年4回開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生親子を対象とした親子教室の開催 ・食農に関する理解を深めてもらうための内容を企画し、こどもの健全な成長に寄与する。
B-2-4	28	上越信用金庫	ふるさと絆プロジェクト事業	C-2-2 B-2-4 C-2-1	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・地域金融機関として、金融のみならず、いろいろな面で地域貢献を行ってゆくことが大切であるという観点から、当金庫全体で取組むプロジェクトとした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役職員全員参加による地域貢献活動への積極的な参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域行事への積極的な参加。 ・小学生図画・版画展覧会の開催。 ・幼年野球への支援。 ・小・中・高校生の会社見学等の受入による金融リテラシー教育に係る活動。 ・上越市「中山間地域支え隊事業」への企業登録及びボランティア派遣による支援活動。 ・地域経済の景気動向調査活動。

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
B-2-4	81	しゅしゅクラブ	しゅしゅクラブ	C-3-1 C-2-1 B-2-4	継続	<p>◆課題・・・会員のモチベーション維持 ◆背景として・・・二次交通の利用促進に関しては、当会も6年目を迎え、市民団体としてのPR活動は多くできたと考えているが、当会だけで企画、運営を行うことは会員の高齢化などに伴い、困難になってきている。また、事業参加者も年々減ってきているため。</p>	<p>◆目標・・・二次交通の課題に今一度向き合い、市民として次の利用促進のための目標をたてる。市民として、二次交通の現状を理解する。</p>	<p>◆事業の概要・・・市民として、二次交通の利用促進を行う。 (年度内) ①えちごトキめき鉄道5周年を祝う事業 ②鉄道まつりへの参加 他団体と連携しながら、より効果的な事業を行っていきたい。</p>
B-2-5	57	NPO法人マミーズ・ネット	上越の子育て環境の魅力発信事業	B-2-5	継続	<p>上越市は子育てしやすい環境が整っており、子育て支援策も以前から充実している。しかし暮らしている人たちにとっては当たり前のこととなっており、魅力に気がつくべく、他の地域の人に向かって発信していくことも少ない。第1期計画内に行った事業の中でも、上越の魅力に気がつき、自然とそれがほかに広がっていくことを大切に活動してきた。上越は子育てしやすいらしいというイメージを持つ人は増えているかを感じている。</p>	<p>上越市は子育てしやすい場所であると感じられるように、情報発信し、実感できる機会を設ける。</p>	<p>●県外、市外での子育てに関する講演のなかで、上越の子育て支援について紹介する。 ●作成した「子育て環境の魅力発信パンフレット」を活用して、上越の子育て環境について紹介する。 ●SNS上での「#上越の子育て」発信を継続していく。 ●0歳から3歳の子どもを育てる家族に向け「親子フェス」を開催する。</p>
B-2-5	61	NPO法人マミーズ・ネット	子育て情報の発信事業	B-2-2 B-2-5	継続	<p>昨今、インターネットでの情報はあふれているが、本当に必要な情報を選択して取得することは難しい。情報が届かないために、地域とのつながりをつくりにくい人も多い。事業を行う上での課題は、情報収集・確認には手間と時間がかかり、人件費がかなり必要になること。紙媒体として発行する際に広告協賛を集めているが、集まりにくいこと。</p>	<p>子育て世代が、上越は楽しく子育てしやすい地域であると感じてもらうこと。事業に子育て世代が関り、地域の核となる人材となること。</p>	<p>●フリーペーパー「じょうえつ子育て応援誌With Kids NEWS」の発行 ・乳幼児を子育て中の保護者が、自ら企画や取材に関わり、身近な地域の情報を集めた子育て応援誌を年に4回発行発行する。 ●親子向けイベント情報の収集と発信 ・乳幼児を子育て中の保護者が、実際にイベントに参加した情報を持ち寄ったり、新たなイベントの情報を持ち寄る会を開催する。 ・イベント情報を収集し、親子向けイベントカレンダーの製作(毎月)、コミュニティFM局への情報発信(毎週)を行う。</p>

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
C-1-1	63	商工会議所政策委員会（大島G）	潤いとやすらぎのまちづくり事業	C-1-1 B-2-2	継続	<p>大島グループの「暮らし・福祉エリア」を担当し、子供から高齢者までの安心なライフステージを整備し、首都圏高齢者等の移住促進、地域などの子育て・介護等の総合サービスを提供することにあつた。期間中に「企業主導型保育事業」を上越市に初めて完成させたが、想定以上の利用者があ増床も検討しなければならない。</p>	<p>第2期総合戦略期間の目標として ①サンクス高田第4号館の建設計画策定 ⇒ R2年度予定 ②グループホーム建設構想策定 ⇒ R4年度予定 ③ベビーサンクスすくすく寺町の増床計画策定 ⇒ R3年度予定</p>	<p>1、サンクス高田第4号館建築計画策定事業 ○現在の第1号館～第3号館までの総合福祉施設は、満館状態で高齢者が微増する中で新たな施設が必要視されている。更に高田地内の中心地にあり核家族化と超高齢化が進行する中で介護施設の要望が高い。 ○構想では、 ①1FはDS50人規模。 ②2Fはショートステイ20人規模 ③3Fは介護付有料老人ホーム18人規模 ④4F～6Fは高級高齢者住宅15人×3＝45人規模と考えている。 ○建設年度は、R3年度～4年度</p> <p>2、グループホーム建設構想策定事業 ○中心市街地においてグループホームの需要が多くあり、サンクス高田の利用者の中にも対象者がおり、家族からは必要性を訴えられている。この現状からサンクス高田付近に建設計画を構想する。19人規模。</p> <p>3、企業主導型保育園増床計画策定事業 ○H29年度～30年度に掛けて新築した企業保育園は、3ヶ年財政計画を上回る利用者がおり、0歳児～1歳児の希望が特に多く、定員をはるかに超えている。このままでは総定員48人を超えることが明らかであり新たに3歳児～5歳児の増床計画を策定する。 ○構想では、①R3年度 増床計画策定 ②R4年度 建設年度 現状から早まることはありうる。</p>
C-1-1	64	商工会議所政策委員会（大島G）	雁木の街「越後高田」の街なか遺産を活用した文化観光・百年体験事業	C-1-1 C-1-3 C-4-1	継続	<p>【背景】高田エリアは上越市の重点集客エリアであり、上越市全体の観光発展には、高田エリアのさらなる魅力向上が必要と考える。 【課題】期間限定イベントでなく、通年を通じた観光への発展。自然・歴史・文化等各サービスの連携。発酵食品等特産品開発。交通網との連携による周遊型観光の取組。情報発信と広域連携によるプロモーション強化。など。</p>	<p>百年料亭宇喜世、高田世界館等、雁木を活用した各資源の100年以上の歴史、文化を活かした「雁木のまち越後高田」の街なか遺産を活用した文化観光・百年体験ツーリズムを開発する。</p>	<p>①宇喜世及び他の100年遺産の歴史体験、文化体験、観光、食事、物販を自由にセット・カスタマイズできる現在も日常生活の場として利用されている遺産を活かした文化体験ツアー。 ②レンタル和服に着替え、仲居接客（目配り・気配り・心配り）体験、仲居頭からの「おもてなし」講義等を、100年料亭で世界に誇れる「おもてなし」のプロ仲居体験プラン ③語り手より百年遺産（建屋・老舗・町屋）等の歴史・文化の説明を受け、雁木の街並みや神社・寺院等を散策する、雁木街歩き「百年文化と老舗めぐり」ツアー。 ④県外在住の上越出身者に向け、100年の歴史文化越後高田で和の祝宴プランの展開。婚前の「顔合わせ」「結納」をメインに、家族規模の挙式・披露宴を行えるプランも充実予定。 ⑤浄興寺大門通りを「城下の街並みシンボルロード」と位置付け、まち歩きの語り手説明以外にも、神輿（日枝神社）の巡行、駐車場を利用した夏祭りイベント等を開催する。</p>

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
C-1-1	67	花のまち高田プロジェクト	花のまち高田プロジェクト	C-1-1 C-4-1	継続	<p>◆課題・・・高齢化やマンパワー不足が課題としてあげられる。 ◆背景として・・・中心市街地の活性化を目的として20年間取り組んできた「城下町高田花ロード」の実行委員会が母体であり、これまで、新たな人材や次世代育成に取り組みなかつたため。</p>	<p>◆目標・・・身の丈にあった活動や、次世代の人たちが興味、関心を持つ内容で、新しい商店街及び中心市街地の活性化を目指していきたい。 また、商店街ならではの健康増進の啓蒙事業など、シニアが取り組むべき課題にも取り組んでいきたい。</p>	<p>◆事業の概要・・・「花」をテーマに四季を通じた商店街ならびに中心市街地活性化に取り組む。 春・・・「世界の桜」の写真展の開催。→インバウンド×観桜会誘客×個店PR 夏・・・「お水鉢プロジェクト」の開催。→蓮まつりPR×商店街PR×まちの景観作り。 秋・・・「たかだ花ロードウイーク」の開催。→アート×商店街振興×まちなか回遊。 冬・・・「本町ウインターマーケット」の開催。→インバウンド×商店街振興 上記のイベントは、本町商店街、まちづくり上越、高田まちづくり株式会社、オープンガーデン愛好会等と連携して実施していく予定。また、時期や期間、回数などは時流や予算を鑑みながら検討し、進めていく。</p>
C-1-1	71	NPO法人高田警女の文化を保存・発信する会	「警女ミュージアム高田」運営発信事業	C-1-1 C-2-1 C-3-2	継続	<p>H27年11月にミュージアムを開設。郷土の誇るべき警女の文化を発信している。春・夏・秋の企画展以外は、土・日曜のみの会館である。来館者は、1年目の1,200人/年間から3年目1,600人/年間まできている。展示の充実と館内(2階)の整備を進め、更なる発信力強化に努める。</p>	<p>年間来館者2,000人 管理運営の充実</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 県観光商談会(東京・大阪)に参加し、PRすることにより来館者数を増やす。 ・R元9/18東京観光商談会 10/23大阪観光商談会(R2.3予定) 2. 警女唄演奏会や門付け再現などのイベントを年4~5回開催し来訪者を増やす。 ・警女唄演奏会7/27、10/12、2/9 門付け4/13、10/5、2/9 3. 歴史博物館や上越市立美術館と連携を図り、市内街なか回遊と発信を強化していく。 ・ミュージアム企画展 春4/1~4/21、夏7/27~8/13、秋10/5~10/14 歴史博物館H30.7/21オープン、高田警女斎藤真一常設コーナー 上越市立美術館R2夏開館予定、斎藤真一警女展示予定 4. ミュージアム2階の改修工事を行い、展示を充実させる。 ・R3年改修工事着工
C-1-1	73	お馬出しプロジェクト	お馬出し塾	C-1-1 C-3-2 C-2-1	継続	<p>2006年から年3回のペースで「お馬出し塾」を開催している。新しい講師の掘り起こしが課題である。</p>	<p>地元講師による講演をお聞きし、教養を深めるとともに会員相互の親睦を深める。</p>	<p>会場は第20回より継続して武蔵野酒造の「楽酔亭」で行っている。会の前半は講演会、後半は「清宴」と称し日本酒と郷土料理のおもてなしを行いながらまちづくりを話題に交流を行っている。</p>
C-1-1	75	越後高田・雁木ねっとわーく	風鈴街道IN雁木事業	C-1-1 C-1-3	継続	<p>歴史的資産である高田の雁木が年々縮小していることから、雁木の重要性を理解していただき、守っていく機運を醸成していく必要があります。</p>	<p>雁木の歴史的価値維持保存する必要性を認識してもらい機運の醸成を高めて行くことを事業の目標としています。本事業は模索しながら実施していく事業ですので具体的な数値等の目標設定にそぐわないものと考えます。</p>	<p>事業の内容：雁木の歴史的価値と維持保存の必要性を認識してもらうために毎年夏に雁木の軒先に風鈴を飾ります。また、雁木を題材とした写真コンテストを実施します。 実施方法：毎年7月の高田の祇園祭からお盆まで雁木のある町内に呼びかけて風鈴を飾ります。また、雁木を題材にして雁木の写真コンテストを実施します。雁木の歴史的価値を知ってもらうためのパンフレットを作成して首都圏向けに発信していく事業を計画したいと考えています。</p>

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
C-1-1	77	南本町三丁目まちづくり協議会	町内景観ガイドライン作成	C-1-3 C-1-1 C-2-1	継続	参加する人が固定化しつつあり、人材確保が難しくなってきた。住民の高齢化、減少に伴い空き家が増え、また隣人との交流が減ってきている。	現状維持を最低限保ちつつ、町内の意向に理解・協力を呼び掛けていきたい。大切な個人の財産ではありますが「雁木」を守りつつ、それを活かした町内全体の景観づくりに取り組んでいきたい。	専門家と市役所と連携を取りながら、適切なアドバイスをいただき住民参加で取り組んでいく。また、今上越技術高等学校の生徒さんたちと交流しながら行っているのを継続して、若い力と発想を吹き込んでもらうよう努力と協力をしていく。町内情報発信として情報誌「なん・ぼん・さん」を作成している。これを継続し町内を見直しながら魅力ある町づくりをしていきたい。
C-1-1	82	JR東日本鉄道0B会 直江津支部	鉄道を通じた街起し	C-3-1 C-1-1	継続	「新潟県で一番最初に鉄道が走った街なおえつ」としての歴史、先人の苦労、鉄道が果たした近代史における役割、そして一等駅としての直江津駅を含め駅前商店街の活性化が課題	D51-75を通じて、鉄道の歴史とともに、直江津駅前商店街の発展、又残っている鉄道遺産を「産業遺産」として後世に残していく。	・五智公園にあるD51-75蒸気機関車の保存清掃活動を一般市民、子どもたちを交えて行う（8月） ・10月鉄道の日に手有働を商店街と協力し盛り上げる。 ・信越線無人駅の清掃活動 ・新潟県鉄道発祥の地啓蒙活動（講演等）
C-1-2	17	上越地域振興局 (企画振興部)	地域づくりサポートチーム	C-1-2 C-2-2	新規	・中山間地域では人口減少、高齢化の進行により地域づくりの担い手が不足している。 ・集落機能の低下、生活サービスの減少など様々な課題が生じている。	・住民を中心としたまちづくりの推進 ・活力ある地域の実現	・地域の主体的な地域づくりを後押しするため、地域振興局職員、市町村地域づくり担当課職員、地域づくり等の専門家等で分野横断的なサポートチームを編成し、地域が実現したいビジョンを形にする取り組みを支援する。 ・1年目に地域と対話を重ねながら協働で、地域が実現したいビジョンに基づいた計画（実践プラン）を策定し、2年目及び3年目に実践プランに基づく地域の取組みをオーダーメイド型で支援する。 例：高齢者の移動支援（買い物、通院等）、新規就農者の確保、米・野菜等の地域資源で稼げる仕組みづくり（コミュニティビジネス）など
C-1-2	32	金谷北地区農村元気会	古道を生かした農村集落の活性化	C-1-2	新規	農村集落は、少子高齢化のために集落維持すら困難な状況にある。これを改善すべく、昔から使われてきた古道を復活させたい。これらは、生活道路ではあるが、戦争にも使われたことから知名度を上げ、農村集落の維持活性化を図る。	古道整備は令和元年度で終わったことから、R2～R6では古道の維持管理とイベントへの市民の参加を呼びかけ参加者を増やす。	・年3回（4月、7月、11月）のイベントの実施 ・イノシシの肉を食う会の実施 ・市民とともに都会人へのPRと参加をうながす。
C-1-2	33	元気な農業づくり推進協議会	上越市中山間地域元気な農業づくり推進協議会	A-1-4 C-1-2	継続	中山間地域等直接支払制度の活用により、農地は保全されているが、高齢化と後継者の不足から担い手不足が深刻である。 また、地域マネジメント組織の活動内容は、組織によって差があり、中山間地域等直接支払交付金の事務や、機械・農地の利用調整等の機能を果たしていない組織がある。	農地の保全と担い手育成を推進するとともに、地域マネジメント組織を核として中山間地域の活性化を行う。	中山間地域等直接支払交付金や市補助事業を活用し、農地保全と担い手育成を推進することにより、中山間地域農業の振興を図る。 また、地域マネジメント組織の代表者に集まっていただき、定期的に各種制度の情報提供や意見交換を実施する。 ○中山間地域農業生産振興事業、農産物等庭先集荷サービス事業、ふるさと玉手箱事業による支援（市補助事業） ○推進協議会、現地研修会等の開催

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
C-1-2	36	雪だるま財団	ふるさと交流事業	C-1-2 C-4-1 D-1-1	継続	越後田舎体験の受入を始めてから20年。事業開始当時と受入の環境も変わり、受入の中心である山間部の人口減・高齢化は、受入民泊家庭の当初の3分の1ほどにまでに激減している。あわせて、体験指導者等の高齢化や宿泊施設の廃業、施設の老朽化など様々な面で支障をきたしている。平成29年と30年に農水省の農泊推進事業を行っているが収入に結びつく事業展開は難しい。今後取り組む方向として、学校団体に限らない受入拡大（一般・企業・インパウンド）が必須である。	上越地域における地域資源を活用した体験型観光交流事業を実施し、地域内で連携を図りながら、観光交流人口の拡大を目指す。	体験型観光交流の受入及び促進 (1) 大人・企業・インバウンドなど様々な顧客ニーズに応えられるよう、地域・人・施設等の連携を図り、新しい体験プログラムの検討、既存のプログラムのレベルアップ、受入れの課題解決などを図る。 例) 個人旅行、インバウンド等、体験・交流を含めた観光事業として、ターゲットに応じた商品を開発し販売する。 (2) 受入地域の拡大、インストラクターの人材育成 例) 体験活動に関する指導者等の人材育成のための研修・セミナーの実施 (3) 営業・情報発信を行ない、農泊の推進も継続していく。
C-1-2	68	くびき振興会	当振興会の基盤強化	C-1-2 C-4-1	新規	現状、当会は市からの委託事業を中心として活動、運営している。昨今、国を筆頭に県、市の財政が厳しいため委託事業の縮小が懸念される。将来を見通して稼げる事業を模索し取り組み、経営環境の改善・発展を図る。	委託事業費外比率を10%以上とする。	・各振興会では様々な事業を請け負っているとの事なので、まずは先進振興会の内容を調査する。 ・当会で対応できる事業、受注可能な事業、作業はあるかを調査。 ・事業受託に向けたスキルアップのため各種講演会、セミナーに参加して知識をひろめアンテナの感度を上げる。
C-1-2	69	かみえちご山里ファン倶楽部	地域再生を担う若者の人材育成	D-1-1 C-2-1 C-1-2	継続	子どもたちへの教育は、継続して支援することが重要。地域に対する意識が途切れることなく高まるとともに、自己肯定感も高まると感想が上がっている。	UIJターンを促す	・地元中学校を対象にしたUターン教育の実施（年10回程の座学とフィールドワーク） ・インターンシップの受け入れ（秋に2大学を予定）
C-1-3	64	商工会議所政策委員会（大島G）	雁木の街「越後高田」の街なか遺産を活用した文化観光・百年体験事業	C-1-1 C-1-3 C-4-1	継続	【背景】高田エリアは上越市の重点集客エリアであり、上越市全体の観光発展には、高田エリアのさらなる魅力向上が必要と考える。 【課題】期間限定イベントでなく、通年を通じた観光への発展。自然・歴史・文化等各サービスの連携。発酵食品等特産品開発。交通網との連携による周遊型観光の取組。情報発信と広域連携によるプロモーション強化。など。	百年料亭宇喜世、高田世界館等、雁木を活用した各資源の100年以上の歴史、文化を活かした「雁木のまち越後高田」の街なか遺産を活用した文化観光・百年体験ツーリズムを開発する。	①宇喜世及び他の100年遺産の歴史体験、文化体験、観光、食事、物販を自由にセット・カスタマイズできる現在も日常生活の場として利用されている遺産を活かした文化体験ツアー。 ②レンタル和服に着替え、仲居接客（目配り・気配り・心配り）体験、仲居頭からの「おもてなし」講義等を、100年料亭で世界に誇れる「おもてなし」のプロ仲居体験プラン ③語り手より百年遺産（建屋・老舗・町屋）等の歴史・文化の説明を受け、雁木の街並みや神社・寺院等を散策する、雁木街歩き「百年文化と老舗めぐり」ツアー。 ④県外在住の上越出身者に向け、100年の歴史文化越後高田での祝宴プランの展開。婚前の「顔合わせ」「結納」をメインに、家族規模の挙式・披露宴を行えるプランも充実予定。 ⑤浄興寺大門通りを「城下の街並みシンボルロード」と位置付け、まち歩きの語り手説明以外にも、神輿（日枝神社）の巡行、駐車場を利用した夏祭りイベント等を開催する。

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
C-1-3	72	街なか映画館再生委員会	高田世界館を活用した街の活性化と交流人口UP計画	C-4-1 C-1-3 C-3-2	継続	日本最古級の常設上映映画館として運営している「高田世界館」を利活用した、人の集まる拠点づくりを中心に活動している。映画上映と合わせたイベントや、情報発信が、主たる活動ではあるが、映画の内容によって集客やイベント内容に濃淡がでてしまう。現在は、建物の持つ魅力を活かして観光交流推進会などと県外にピーアールに行っているが、効果が現われだし、観光見学の数字が伸びてきている。	安定した集客と賑わいの創出を目標として、来年春完成予定の映画館前広場を友好的に使用する方法をみつけていきたい。 また、映画館近くの高田小町も含めた面としての活用方法を実現するよう検討していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ■映画上映と、それに関わる監督トークやイベントの実施。 ■映画内容に応じて近隣の店舗と連携した飲食等のイベント実施。 ■館内見学のコースの充実や、未発表のお宝も展示。 ■映画館前広場を使った、フリマや飲食イベントの開催。 ■映画館前広場を使った、屋外上映会。 ■高田小町も会場に利用した展示会。
C-1-3	75	越後高田・雁木ねっとわーく	風鈴街道IN雁木事業	C-1-1 C-1-3	継続	歴史的資産である高田の雁木が年々縮小していることから、雁木の重要性を理解していただき、守っていく機運を醸成していく必要があります。	雁木の歴史的価値維持保存する必要性を認識してもらい機運の醸成を高めて行くことを事業の目標としています。本事業は模索しながら実施していく事業ですので具体的な数値等の目標設定にそぐわないものと考えます。	事業の内容：雁木の歴史的価値と維持保存の必要性を認識してもらうために毎年夏に雁木の軒先に風鈴を飾ります。また、雁木を題材とした写真コンテストを実施します。 実施方法：毎年7月の高田の祇園祭からお盆まで雁木のある町内に呼びかけて風鈴を飾ります。また、雁木を題材にして雁木の写真コンテストを実施します。雁木の歴史的価値を知ってもらうためのパンフレットを作成して首都圏向けに発信していく事業を計画したいと考えています。
C-1-3	76	NPO法人くびきのお宝のこす会	くびき野レールパーク及び瀧本邸公開事業	C-1-3 C-2-1 C-3-2 C-4-1 C-3-1	継続	くびき野レールパークは鉄道ファンや地元の人々からは、体験型の鉄道ミュージアムとしての認知を受けつつある。地域の人々との結びつきをさらに強め、来訪者の拡大を図ることが課題である。また、瀧本邸は市内の名家4邸と連携をとりながら、こちらも来訪者を増やすことが課題である。	平成30年度の年間来訪者数(3334人)を2割上回る、年間4000人の来訪者数を目指す。	<p><くびき野レールパーク></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間5回(6日間)に亘る定期公開・特別公開の実施 ・マンネリ化に陥らない公開イベント内容の工夫、刷新 ・マスコミ等を利用した宣伝の拡大 ・幼児、児童、生徒や一般人を対象とした学習啓発活動の宣伝、推進 ・地元の鉄道関係機関との話し合いによる公開内容の検討 <p><瀧本邸></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスコミ等を利用した宣伝の拡大 ・市内の名家4邸(保坂邸、林富永邸、白田邸、飯田邸)と連携した公開の実施 ・中学生の清掃ボランティアと瀧本邸の歴史的・文化財としての価値宣伝
C-1-3	77	南本町三丁目まちづくり協議会	町内景観ガイドライン作成	C-1-3 C-1-1 C-2-1	継続	参加する人が固定化しつつあり、人材確保が難しくなっている。住民の高齢化、減少に伴い空き家が増え、また隣人との交流が減ってきている。	現状維持を最低限保ちつつ、町内の意向に理解・協力を呼び掛けていきたい。大切な個人の財産ではありますが「雁木」を守りつつ、それを活かした町内全体の景観づくりに取り組んでいきたい。	専門家と市役所と連携を取りながら、適切なアドバイスをいただき住民参加で取り組んでいく。また、今上越技術高等学校の生徒さんたちと交流しながら行っているのを継続して、若い力と発想を吹き込んでもらうよう努力と協力をしていく。町内情報発信として情報誌「なん・ぼん・さん」を作成している。これを継続し町内を見直しながら魅力ある町づくりをしていきたい。

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
C-2-1	5	えちご上越農業協同組合	消費者参加型農業体験・視察ツアー	A-1-4 C-2-1	新規	地域の主産業である農業に対し、管内で生産されている農畜産物の情報提供や、地産地消に対する理解を高める活動を積極的に展開する必要がある。消費者の理解を現場を消費者から知ってもらうことで、地域への理解・愛着の向上と地元農畜産物の消費・販売拡大につなげたい。	消費者の農への理解向上と地元農畜産物のファン拡大を目指す。	・消費者による農業の現地圃場巡回や農作業体験ツアーの実施。
C-2-1	12	上越地域振興局 (健康福祉環境部)	食育推進事業	C-2-1		若年者の朝食欠食や生活習慣の乱れにより、働き盛り世代では生活習慣病の発症が見られていることから、若年層からの生活習慣改善の働きかけが重要である。	高校生や大学生が生涯に渡って自分のためになる食事をするための取組を関係者と連携し推進する。	○高校・大学や企業と連携した健康づくりの取組 大学での講話、ワークショップ、実践クッキング講座、学園祭での食育ブース設置、出前講座等 ○普及啓発 ホームページ、地元新聞等を通じて正しい知識の普及啓発 ○高校3年生を対象とした健康や暮らしに関するお役立ち情報(冊子「BON VOYAGE」)の配布
C-2-1	18	上越教育大学	公募型地域貢献事業	C-2-1 C-2-2 D-3-2	継続	本事業は、上越市における課題の解決や地域の活性化に資する各種事業を学内で募集し、令和元年度は「上越市地方創生推進事業補助金」を活用して実施している。各種事業への参加者や関係者のニーズを把握し、引き続き、上越市の地域活動の活性化や地域振興につながる事業となるよう改善・充実を図っていくこととしているが、事業継続のための予算の確保が課題(特に学内予算)である。	本事業は、上越市に立地する大学として、様々な分野の教育・研究成果を上越市の地域活動の活性化や地域振興、上越市に暮らす子どもたちの支援などにつなげる。	「組織的な地域交流」「地域貢献」につながる事業や「地域の活性化」「地域振興」につながる事業を「公募型地域貢献事業」(以下、本事業。)として、学内の教員から各種事業を募集・実施することで、本学教員の教育・研究成果を広く地域社会に還元する。また、事業の企画にあたっては、その内容や成果等が本学学生に反映できるものであることのほか、本学学生以外の学外者(学校・教育関係者や地域住民等)が参加できるものであることを求める。 なお、本事業は、毎年度、学内の教員から各種事業を募集し、別途定める審査基準により審査・採択する。 <参考>令和元年度実施事業 ①上越地域のエネルギー環境教育の推進とそれに関わる地域ネットワークづくり ②山屋敷スポーツクラブの運営支援 ③学校現場のニーズに応じた社会科歴史地域教材の開発と研修機会の提供 ④上越市清里区の人々と生活文化を継承・創造するプロジェクトI ⑤大学・学校・地域連携型の学習支援活動のモデル事業 ⑥上越子ども支援プロジェクト ⑦地域の伝統文化を生かした共同教育推進事業
C-2-1	20	新潟県立看護大学	市民公開講座及び上教大との連携公開講座	B-2-2 B-2-3 C-2-1 D-3-2	継続	・医療分野の著名な知識人や先駆的な取り組みを行っている実践者を招いた市民公開講座を開催している。 ・本学と上越教育大学は地域社会に貢献することを目的として協定を締結し、お互いの大学が持つ資源を活用した公開講座を開催している。	・看護・医療・福祉・教育分野の研究や実践に関する新しい知見やトピックスについて講座を開催し、地域住民に学習の機会を提供する。	(現時点で事業内容は未定のため、令和元年度の内容を記載する。) ・市民公開講座 「心を元気にする4つのステップ」をテーマに、著名な学識者を講師に招く。 参加費無料、参加者150人規模 ・看護大・上教大連携公開講座 「長寿の秘訣!健康で豊かに生きる」をテーマに、両大学の教員各2名が講師を務める。 参加費無料、参加者150人規模

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
C-2-1	21	新潟県立看護大学	いきいきサロン	B-2-2 B-2-3 C-2-1 D-3-2	継続	健康に関心のある地域の住民と、看護や健康等の専門家との交流の場として、平成21年度から開催している。	地域住民が気軽に大学に足を運び、健康について関心を寄せ、学び合う場を目指す。	(現時点で事業内容は未定のため、令和元年度の内容を記載する。) 全5テーマで実施する。 ・心と体の健康のための食事～美味しく食べて健康を～ ・歯周病を知ろう ・がんと「緩和ケア」ーからだところの痛みを和らげるケアー ・高齢者のうつ予防と家族の対応 ・流行性感染症にかかりたくない 講師は本学教員の他、医療機関院長等が務める。 参加費無料、参加者各150人規模
C-2-1	22	新潟県立看護大学	どこでもカレッジ	B-2-2 B-2-3 C-2-1 D-3-2	継続	現職の看護職・介護職はもちろん、潜在看護職へのリカレント教育を推進する活動を実施している。	新潟県内、特に上越地域の看護職の総合的な資質向上を目指し、様々な学習及び研修の機会を提供することにより、県民のヘルスケアの充実を目指す。加えて、卒業生の卒業後教育も視野に入れた看護職の復職支援を行う。	(現時点で事業内容は未定のため、令和元年度の内容を記載する。) どこでもカレッジ公開講座 ・最新トピックス 1コース ・看護研究支援 6コース ・看護実践スキルアップ 4コース 講師は本学教員の他、医療機関認定看護師等が務める。 参加費無料～2,000円、参加者各10人～80人規模 バーチャルカレッジ ・インターネットを利用し、本プロジェクトホームページ上へ掲載された動画等の教材を用いて学修することができるプログラム。受講者の学びの場や時間を限定せず、インターネット環境さえあればいつでもどこでも繰り返し学ぶことができ、自分のペースで学習することができる。 ・参加費無料、ただし会員登録が必要
C-2-1	23	新潟県立看護大学	出前講座	B-2-2 B-2-3 C-2-1 D-3-2	継続	平成26年度より地域貢献の一環として、教育機関、市民団体及び企業等の求めに応じて、本学教員が外向いて講義等を行う出前講座を実施している。	・本学教員が地域に向くことで大学を身近に感じてもらう ・本学教員の研究成果等を地域へ還元する ・地域住民への生涯学習の機会を提供する	(現時点で事業内容は未定のため、令和元年度の内容を記載する。) 一般向け全12テーマ ・いざというときに役立つ“子どものホームケア” ・働き盛りの方々へ 少し生活を見直してみませんか？(食事編) ・認知症のこと知りたい 他 看護職・介護職向け全4テーマ ・看護職・介護職のための緩和ケア講座 他 講師は本学教員、講師料及び謝金等は不要、旅費を負担していただく。 実施件数37件、参加者延べ1,150人(平成30年度実績)

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
C-2-1	28	上越信用金庫	ふるさと絆プロジェクト事業	C-2-2 B-2-4 C-2-1	継続	・地域金融機関として、金融のみならず、いろいろな面で地域貢献を行ってゆくことが大切であるという観点から、当金庫全体で取組むプロジェクトとした。	・役職員全員参加による地域貢献活動への積極的な参加。	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域行事への積極的な参加。 ・小学生図画・版画展覧会の開催。 ・幼年野球への支援。 ・小・中・高校生の会社見学等の受入による金融リテラシー教育に係る活動。 ・上越市「中山間地域支え隊事業」への企業登録及びボランティア派遣による支援活動。 ・地域経済の景気動向調査活動。
C-2-1	69	かみえちご山里ファン倶楽部	地域再生を担う若者の人材育成	D-1-1 C-2-1 C-1-2	継続	子どもたちへの教育は、継続して支援することが重要。地域に対する意識が途切れることなく高まるとともに、自己肯定感も高まると感想が上がっている。	UIJターンを促す	<ul style="list-style-type: none"> ・地元中学校を対象にしたUターン教育の実施（年10回程の座学とフィールドワーク） ・インターンシップの受け入れ（秋に2大学を予定）
C-2-1	71	NPO法人高田警女の文化を保存・発信する会	「警女ミュージアム高田」運営発信事業	C-1-1 C-2-1 C-3-2	継続	H27年11月にミュージアムを開設。郷土の誇るべき警女の文化を発信している。春・夏・秋の企画展以外は、土・日曜のみの会館である。来館者は、1年目の1,200人/年間から3年目1,600人/年間まできている。展示の充実と館内（2階）の整備を進め、更なる発信力強化に努める。	年間来館者2,000人 管理運営の充実	<ol style="list-style-type: none"> 1. 県観光商談会（東京・大阪）に参加し、PRすることにより来館者数を増やす。 <ul style="list-style-type: none"> ・R元9/18東京観光商談会 10/23大阪観光商談会（R2.3予定） 2. 警女唄演奏会や門付け再現などのイベントを年4～5回開催し来訪者を増やす。 <ul style="list-style-type: none"> ・警女唄演奏会7/27、10/12、2/9 門付け4/13、10/5、2/9 3. 歴史博物館や上越市立美術館と連携を図り、市内街なか回遊と発信を強化していく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアム企画展 春4/1～4/21、夏7/27～8/13、秋10/5～10/14 4. ミュージアム2階の改修工事を行い、展示を充実させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・R3年改修工事着工 <p>歴史博物館H30.7/21オープン、高田警女斎藤真一常設コーナー 上越市立美術館R2夏開館予定、斎藤真一警女展示予定</p>
C-2-1	73	お馬出しプロジェクト	お馬出し塾	C-1-1 C-3-2 C-2-1	継続	2006年から年3回のペースで「お馬出し塾」を開催している。新しい講師の掘り起こしが課題である。	地元講師による講演をお聞きし、教養を深めるとともに会員相互の親睦を深める。	会場は第20回より継続して武蔵野酒造の「楽酔亭」で行っている。会の前半は講演会、後半は「清宴」と称し日本酒と郷土料理のおもてなしを行いながらまちづくりを話題に交流を行っている。
C-2-1	76	NPO法人くびきのお宝のこす会	くびき野レールパーク及び瀧本邸公開事業	C-1-3 C-2-1 C-3-2 C-4-1 C-3-1	継続	くびき野レールパークは鉄道ファンや地元の人々からは、体験型の鉄道ミュージアムとしての認知を受けつつある。地域の人々との結びつきをさらに強め、来訪者の拡大を図ることが課題である。また、瀧本邸は市内の名家4邸と連携をとりながら、こちらも来訪者を増やすことが課題である。	平成30年度の年間来訪者数（3334人）を2割上回る、年間4000人の来訪者数を目指す。	<p><くびき野レールパーク></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間5回（6日間）に亘る定期公開・特別公開の実施 ・マンネリ化に陥らない公開イベント内容の工夫、刷新 ・マスコミ等を利用した宣伝の拡大 ・幼児、児童、生徒や一般人を対象とした学習啓発活動の宣伝、推進 ・地元の鉄道関係機関との話し合いによる公開内容の検討 <p><瀧本邸></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスコミ等を利用した宣伝の拡大 ・市内の名家4邸（保坂邸、林富永邸、白田邸、飯田邸）と連携した公開の実施 ・中学生の清掃ボランティアと瀧本邸の歴史的・文化財としての価値宣伝

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
C-2-1	77	南本町三丁目まちづくり協議会	町内景観ガイドライン作成	C-1-3 C-1-1 C-2-1	継続	参加する人が固定化しつつあり、人材確保が難しくなってきた。住民の高齢化、減少に伴い空き家が増え、また隣人との交流が減ってきている。	現状維持を最低限保ちつつ、町内の意向に理解・協力を呼び掛けていきたい。大切な個人の財産ではありますが「雁木」を守りつつ、それを活かした町内全体の景観づくりに取り組んでいきたい。	専門家と市役所と連携を取りながら、適切なアドバイスをいただき住民参加で取り組んでいく。また、今上越技術高等学校の生徒さんたちと交流しながら行っているのを継続して、若い力と発想を吹き込んでもらうよう努力と協力をしていく。町内情報発信として情報誌「なん・ぼん・さん」を作成している。これを継続し町内を見直しながら魅力ある町づくりをしていきたい。
C-2-1	81	しゅしゅクラブ	しゅしゅクラブ	C-3-1 C-2-1 B-2-4	継続	◆課題・・・会員のモチベーション維持 ◆背景として・・・二次交通の利用促進に関しては、当会も6年目を迎え、市民団体としてのPR活動は多くできたと考えているが、当会だけで企画、運営を行うことは会員の高齢化などに伴い、困難になってきている。また、事業参加者も年々減ってきているため。	◆目標・・・二次交通の課題に今一度向き合い、市民としての利用促進のための目標をたてる。市民として、二次交通の現状を理解する。	◆事業の概要・・・市民として、二次交通の利用促進を行う。 (年度内) ①えちごトキめき鉄道5周年を祝う事業 ②鉄道まつりへの参加 他団体と連携しながら、より効果的な事業を行ってきたい。
C-2-1	86	上越市まちづくり市民大学OB会	まちづくり市民大学事業	C-2-1		まちづくりの人材は継続して実施していく必要があります。市では平成22年度までまちづくりの人材育成のために市民大学を開催してきましたが平成22年度を持って廃止しました。その後継続した人材育成の重要性を鑑みてまちづくり市民大学OB会が市民大学を継続しています。	総合的なまちづくりの中心となる人材を育成していくことを目標としています。本事業は模索しながら実施していく事業ですので具体的な数値等の目標は設定していません。	事業の内容：上越市が面している課題を討論形式で学習していきます。 実施方法：年間7回程度の講座を開催して行きます。課題別にグループに分かれて課題の背景や問題点を探り改善点を話し合っていきます。女性が社会のあらゆる分野において活躍してもらうことがきちされていますがこのための人材育成の計画がどこにもない現状から、女性の人材育成に関しても取り組みたいと考えています。
C-2-2	17	上越地域振興局(企画振興部)	地域づくりサポートチーム	C-1-2 C-2-2	新規	・中山間地域では人口減少、高齢化の進行により地域づくりの担い手が不足している。 ・集落機能の低下、生活サービスの減少など様々な課題が生じている。	・住民を中心としたまちづくりの推進 ・活力ある地域の実現	・地域の主体的な地域づくりを後押しするため、地域振興局職員、市町村地域づくり担当課職員、地域づくり等の専門家分野横断的なサポートチームを編成し、地域が実現したいビジョンを形にする取り組みを支援する。 ・1年目に地域と対話を重ねながら協働で、地域が実現したいビジョンに基づいた計画(実践プラン)を策定し、2年目及び3年目に実践プランに基づく地域の取組みをオーダーメイド型で支援する。 例：高齢者の移動支援(買い物、通院等)、新規就農者の確保、米・野菜等の地域資源で稼げる仕組みづくり(コミュニティビジネス)など

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
C-2-2	18	上越教育大学	公募型地域貢献事業	C-2-1 C-2-2 D-3-2	継続	本事業は、上越市における課題の解決や地域の活性化に資する各種事業を学内で募集し、令和元年度は「上越市地方創生推進事業補助金」を活用して実施している。各種事業への参加者や関係者のニーズを把握し、引き続き、上越市の地域活動の活性化や地域振興につながる事業となるよう改善・充実を図っていくこととしているが、事業継続のための予算の確保が課題（特に学内予算）である。	本事業は、上越市に立地する大学として、様々な分野の教育・研究成果を上越市の地域活動の活性化や地域振興、上越市に暮らす子どもたちの支援などにつなげる。	「組織的な地域交流」「地域貢献」につながる事業や「地域の活性化」「地域振興」につながる事業を「公募型地域貢献事業」（以下、本事業。）として、学内の教員から各種事業を募集・実施することで、本学教員の教育・研究成果を広く地域社会に還元する。また、事業の企画にあたっては、その内容や成果等が本学学生に反映できるものであることのほか、本学学生以外の学外者（学校・教育関係者や地域住民等）が参加できるものであることを求める。 なお、本事業は、毎年度、学内の教員から各種事業を募集し、別途定める審査基準により審査・採択する。 ＜参考＞令和元年度実施事業 ①上越地域のエネルギー環境教育の推進とそれに関わる地域ネットワークづくり ②山屋敷スポーツクラブの運営支援 ③学校現場のニーズに応じた社会科歴史地域教材の開発と研修機会の提供 ④上越市清里区の人々と生活文化を継承・創造するプロジェクトⅠ ⑤大学・学校・地域連携型の学習支援活動のモデル事業 ⑥上越子ども支援プロジェクト ⑦地域の伝統文化を生かした共同教育推進事業
C-2-2	28	上越信用金庫	ふるさと絆プロジェクト事業	C-2-2 B-2-4 C-2-1	継続	・地域金融機関として、金融のみならず、いろいろな面で地域貢献を行ってゆくことが大切であるという観点から、当金庫全体で取組むプロジェクトとした。	・役職員全員参加による地域貢献活動への積極的な参加。	・各地域行事への積極的な参加。 ・小学生図画・版画展覧会の開催。 ・幼年野球への支援。 ・小・中・高校生の会社見学等の受入による金融リテラシー教育に係る活動。 ・上越市「中山間地域支え隊事業」への企業登録及びボランティア派遣による支援活動。 ・地域経済の景気動向調査活動。
C-2-2	31	上越市町内会長連絡協議会	町内会長まちづくりの集い	C-2-2	継続	・今年（7/10開催）の参加者を対象に行ったアンケートにおいて、「来年度の内容としてどのようなものを希望するか。」との問いに、「まちづくりの参考となる講演」が35%、次いで「他の町内会の活動事例」が27%であった結果等を踏まえ、次年度以降の実施内容を検討する。	・町内会長をはじめとする地域コミュニティの核となる方々に対し、地域が抱える課題等について共有するとともに、その課題等の解決につながるような情報を提供する場とする。	○地域コミュニティの核である町内会を代表する町内会長に対して、地域づくりに関する情報を提供し、市とともに地域づくりを進める意識の醸成を図ることを目的に、平成23年度から市と上越市町内会長連絡協議会の共催事業として実施している。 ・令和元年度は7月10日に開催し、参加者は625人（町内会長474人、町内会役員など151人）であった。 ○実施内容（基本フレーム）は以下のとおり。 ・上越市町内会長連絡協議会長 あいさつ ・上越市長 あいさつ ・町内会活動事例紹介（3団体） ・講演（専門家講師）
C-2-2	41	日本政策金融公庫	ソーシャルビジネスへの支援（旧 ソーシャルビジネスネットワーク構築プロジェクト）	C-2-2	継続	ソーシャルビジネス関連分野での金融支援にかかるニーズの掘り出し	高齢者や障害者の介護・福祉、子育て支援、地域活性化、環境保護など、地域や社会が抱える課題の解決に取り組むソーシャルビジネスの担い手の皆さまの支援	・上越市、くびき野NPOサポートセンター、上越信用金庫と公庫の4者で「上越市ソーシャルビジネス支援ネットワーク」を組織し、地域や社会が抱える課題の解決に取り組むソーシャルビジネスの担い手の皆様の支援しています。 ・金融面でも、「ソーシャルビジネス支援資金」等の取扱いを行っており、平成30年度のソーシャルビジネス関連融資実績は、全国で11,328件、834億円（うちNPO法人への融資実績は、1,381件、87億円）となりました。

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
C-3-1	70	株式会社北信越地域資源研究所	上越妙高駅から主要観光地への動線解析	C-4-1 C-3-1 C-3-2	継続	北陸新幹線が2015年に始動し、新潟の玄関、北陸地域の玄関、上越地域の玄関が上越妙高駅になりつつあるが、そこから主要観光地への動線については調査がされているとは言い難い。中心市街地の活性化、観光スポットの顕在化を考えると、在来線を使っでの移動等について具体的な方策が必要だと思う。	新幹線駅からの来訪客の動線を明確にする。動線を可視化する。	①フリーペーパーの仕組みを利用したトレース実現 ②Wi-Fiスポットを使用したトレース調査
C-3-1	74	お馬出しプロジェクト	えちごトキめき鉄道「冬の雪月花」のおもてなし	C-3-2 C-3-1	継続	2016年から「冬の雪月花」運行に伴い「おもてなしチーム」をつくり、まとめ役として活動している。自主的な活動で前島津社長の理解を得て実施したが、新社長のもとでの実施は未定である。	首都圏から訪れる観光客に雁木を含めた高田に残る「雪国の暮らし」を紹介しながらおもてなしをする。	①高田駅で角巻・トンビ姿によるお出迎え。 ②高田小町でのおもてなし ・角巻・トンビの着用体験 ・三味線演奏と方言でのおもてなし ・郷土料理（つけな汁と切り干し大根煮）のおふるまい ・地元商品の販売
C-3-1	76	NPO法人くびきのお宝のこす会	くびき野レールパーク及び瀧本邸公開事業	C-1-3 C-2-1 C-3-2 C-4-1 C-3-1	継続	くびき野レールパークは鉄道ファンや地元の人々からは、体験型の鉄道ミュージアムとしての認知を受けつつある。地域の人々との結びつきをさらに強め、来訪者の拡大を図ることが課題である。また、瀧本邸は市内の名家4邸と連携をとりながら、こちらも来訪者を増やすことが課題である。	平成30年度の年間来訪者数(3334人)を2割上回る、年間4000人の来訪者数を目指す。	<くびき野レールパーク> ・年間5回(6日間)に亘る定期公開・特別公開の実施 ・マンネリ化に陥らない公開内容の工夫、刷新 ・マスコミ等を利用した宣伝の拡大 ・幼児、児童、生徒や一般人を対象とした学習啓発活動の宣伝、推進 ・地元の鉄道関係機関との話し合いによる公開内容の検討 <瀧本邸> ・マスコミ等を利用した宣伝の拡大 ・市内の名家4邸(保坂邸、林富永邸、白田邸、飯田邸)と連携した公開の実施 ・中学生の清掃ボランティアと瀧本邸の歴史的・文化財としての価値宣伝
C-3-1	78	えちごトキめき鉄道株式会社	トキ鉄サポーターズクラブ	C-3-1	継続	沿線人口の減少による利用者減が想定される中、トキ鉄を存続させ、安定経営を図るためには、地域の皆さまと一体となって利用促進の取組を進めることが必要。地域の皆さまに自分たちの鉄道「マイレール」意識を持っていただき、利用促進及び沿線地域の活性化を図るため、サポーターズクラブ事業を推進する。	「マイレール」意識の醸成に向け、サポーターズクラブ会員並びに協賛店加入を促進する。	○サポーター会員 ・会費を払って入会 ・会員特典は、会員証、優待乗車券、情報提供の付与、協賛店でのサービス利用、雪月花乗車代割引等。 ・ポイントカードの導入。駅窓口での定期券、回数券等の購入やサポーターズクラブのイベント参加でポイント加算。ポイントは景品と交換可能。 ○サポート団体 ・駅周辺等でトキ鉄のサポート活動を実施する。 ・サポーターズクラブ事務局は、サポート活動に対してクラブ会費から経費の一部を助成する。 ○協賛店 ・サポーター会員へ、商品の割引等のサービスを提供する。

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
C-3-1	79	頸城自動車株式会社	乗合バス事業	C-3-1	継続	<p>・高齢化の進行や運転免許返納者の増加に伴い、これまで以上にきめ細かな公共交通を求められる機運の中、住民の需要を的確にとらえ、利用しやすく、「乗ってもらえる」公共交通を再構築する必要がある。</p> <p>・一方、少子化や人口減少、自家用車の普及が進む中、公共交通の利用者は減少傾向にあり安定的な運行を維持するための市の財政負担は年々増大していることから、将来にわたって持続可能な公共交通を確保する必要がある。</p>	<p>地域の実情に即した機能的・効率的なバス交通ネットワークの整備を進める。</p>	<p>下記の事業の取組については、上越市次期総合公共交通計画に沿って、市と連携して取り組む予定です。</p> <p>1.計画区域 上越市全域 2.計画期間 令和2年度から令和9年度までの8年間 3.公共交通ネットワークのイメージ</p> <p>・バス路線を基幹となる「主要幹線」、駅と各区をつなぐ「幹線」、地域内のきめ細やかな移動手段を確保する「支線」に役割分担し、役割に応じた本数、ダイヤ等を設定する。</p> <p>・従来のバスに限らず、利用頻度や人数などに応じ、より小型の車両による「乗合タクシー」等、効率的な運行形態を検討する。</p> <p><各種支援内容></p> <p>国 地域公共交通活性化再生法に基づく支援 地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱に基づく支援</p> <p>新潟県 新潟県バス運行対策費補助金交付要綱に基づく支援 新潟県生活交通確保対策補助金交付要綱に基づく支援</p> <p>上越市 バス運行対策費補助金として支援</p> <p><他団体との連携意向等></p> <p>・市と連携し、各区総合事務所や沿線町内会、学校関係等との調整を図りながら進めていく予定です。</p>
C-3-1	80	北越急行株式会社	地域ローカル鉄道としての 利便性向上と魅力作り	C-3-1	継続	<p>地域の公共交通機関として市民生活に便利で快適な鉄道輸送サービスを提供する使命がある。また、観光イベントや観光施設への輸送の役目も担っている。さらに、移動手段としてだけではなく、昨今では全国的に鉄道を活用した様々なイベントやツアーが実施され、多くの楽しみを提供している。しかしながら、当社は小規模な鉄道であるため、目に見える形での実現が難しい。</p>	<p>地域の皆様に親しみを持って利用してもらえる鉄道として存在する。</p>	<p>ほくほく線の特徴である高速性を活かした列車ダイヤを作成し、速達性を高める。他の鉄道との接続を改善して利便性の向上を図る。地域のイベントに合わせた臨時列車や車両の増結を行い、利用者の増加に努める。地域の方々と連携したイベント列車やツアーを企画して鉄道を活用した地域の活性化を図る。</p>
C-3-1	81	しゅしゅクラブ	しゅしゅクラブ	C-3-1 C-2-1 B-2-4	継続	<p>◆課題・・・会員のモチベーション維持 ◆背景として・・・二次交通の利用促進に関しては、当会も6年目を迎え、市民団体としてのPR活動は多くできたと考えているが、当会だけで企画、運営を行うことは会員の高齢化などに伴い、困難になってきている。また、事業参加者も年々減ってきているため。</p>	<p>◆目標・・・二次交通の課題に今一度向き合い、市民としての利用促進のための目標をたてる。市民として、二次交通の現状を理解する。</p>	<p>◆事業の概要・・・市民として、二次交通の利用促進を行う。(年度内)</p> <p>①えちごトキめき鉄道5周年を祝う事業 ②鉄道まつりへの参加</p> <p>他団体と連携しながら、より効果的な事業を行っていきたい。</p>

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
C-3-1	82	JR東日本鉄道OB会 直江津支部	鉄道を通じた街起し	C-3-1 C-1-1	継続	「新潟県で一番最初に鉄道が 走った街なおえつ」としての 歴史、先人の苦労、鉄道が果 たした近代史における役割、 そして一等駅としての直江津 駅を含め空き前商店街の活性 化が課題	D51-75を通じて、鉄道の 歴史とともに、直江 津駅前商店街の発展、 又残っている鉄道遺産 を「産業遺産」として 後世に残していく。	・五智公園にあるD51-75蒸気機関車の保存清掃活動を一般市民、 子どもたちを交えて行う（8月） ・10月鉄道の日に手有働を商店街と協力し盛り上げる。 ・信越線無人駅の清掃活動 ・新潟県鉄道発祥の地啓蒙活動（講演等）
C-3-2	19	上越教育大学	外国人留学生の雪国宿泊体 験（スキー等を含む）によ る上越市の国際化推進事業	C-3-2 D-3-2	継続	事業に参加した外国人留学生 から、上越市の魅力について より多くの留学生に情報発信 してもらおう。	・スキー等の雪国体験 を通して、冬の上越市 の魅力に気付かせる。 ・外国人留学生からの 情報発信を通して、上 越市の国際化を推進 し、地域の活性化に資 する。 ・外国人留学生の上越 市における生活を、体 験を通して充実させ る。	スキー発祥の地である上越市の地域性を生かし、ほとんどスキー をしたことのない外国人留学生に宿泊を伴うスキー等の体験を通 して、冬の上越市の魅力に気付かせる。 その魅力を参加した外国人留学生の出身国の人々や友人である他 の外国人留学生等に情報発信してもらうことにより、上越市の国 際化を推進するとともに、地域の活性化に資する。 なお、具体的な情報発信の方法として、次のような取り組みを予 定している。 ・上越教育大学のホームページにおいて事業内容を掲載すること で、海外の交流協定締結大学の学生に上越市の魅力を広く紹介す る。 ・留学生から、本事業を通して知ることができた上越市の魅力に ついて、SNS、メール、口コミ等により、広く紹介してもらおう 働きかけを行う。 ・上越市のまち・ひと・しごと創生推進協議会のSNSページを活 用させていただき、事業内容を紹介する。
C-3-2	34	上越発酵食品研究 会	発酵食品の開発促進と「発 酵のまち上越」のPR	A-1-1 C-3-2		農・商・工の連携により、発 酵食品による地域ブランド創 りを通じて、地域活性化を図 る。	「発酵のまち上越」の イメージ確立	・ブランドイメージの発信…継続した「発酵のまち上越」の魅 力の発信 ・売れる商品開発…商品の磨き上げや新商品開発の促進、農商 工・産学連携マッチング ・販売促進…PR機会の提供、飲食店等出口とのマッチング ・利用シーン拡大…飲食店における地域発酵食品を活用したメ ニュー化の促進 ・次世代継承…次の世代への継承
C-3-2	65	商工会議所政策委 員会（大島G）	酒造蔵・醸造文化発信事業	C-4-1 C-3-2	新規	【背景】高田まちなかに存在 する百年を超える「建物」 「老舗」「町屋」「文化」と 共存する立地に存在する事 を有効活用し、醸造所ならで はの事業を実施し、まちづく りに参画していく必要性。 【課題】日本酒愛好家人口の 減少に対し、多角的な観点で 日本酒を取り上げていくこと で視線を変える事が重要と考 える。	既存の顧客がさらに満 足してもらうことが 第一目標とし、各事業 の実施状況を情報発信 することで、上越市外 の人に酒蔵を知って もらうことで、新規顧客 の増加と共に醸造所 に足を運んでもらえる事 業を実施し、高田ま ちなかの活性化に貢献 する。更に無類のまちな かに存在する醸造所の 維持・継承を目標とす る。	①醸造所の見学 醸造所の改装に伴い、一般の方にも酒蔵を体験できる見学会を 開催し、市外からの観光客及びインバウンド客を誘客することで 日本酒の奥深さを知ってもらう。 ②上越産土産売場の設置 上越名物や特産品を手軽に購入できるコーナーを醸造所内に設置 し、高田まち歩きの中でおみやげ品等の対応も出来る環境づく りを提案する。 ③ 試飲・食事のもてなし 敷地内の「楽酔亭」で庭園を鑑賞しながらの、見学者等に対応し た利き酒や試飲を体験してもらうと共に、一般客や観光客に対 しての食事の席も用意することで日本酒を満喫してもらう。 ※すべての事業の様子を画像・動画で情報発信し、また、来場、 来店した方にも情報発信を促す。

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
C-3-2	66	商工会議所政策委員会(大島G)	着地型観光事業	C-4-1 C-3-2	新規	インバウンドを中心とする観光は東京、大阪、京都などの大都市圏から地方都市へ人の流れが拡散してきたが、昨今はさらに日本の田舎に外国人の興味が注がれ始めており、わが上越市にもチャンスが訪れている。こうした状況下で上越に観光事業の種を蒔き、新しい産業の一つに育てるため、この事業を推進していく。	「人が集まる仕掛け」を軸に観光誘客促進のためのsns配信等による知名度向上と観光を生業とする事業者が増えることにより、将来的には首都圏など他県で学ぶ本市出身の学生達のUターン就職や、他県、他国からの移住促進につなげる。	○観光受け入れ業者の開拓とプログラムの開発： 来訪する人の五感に訴える体験メニューなど外客を受け入れる態勢と受け入れ側の協力体制の構築に向けたネットワーク化を推し進め、可能な限り具体的なプログラムを可視化していく。 ○着地型企画商品の造成、広報、募集、催行： 受け入れ施設のネットワークを活かしたまち歩きや各施設でのさまざまな体験をはじめ、上越名物や特産品を手軽に購入できる商品造成を行う。また、ジャンルに合わせたターゲット層の絞り込みによりsns配信などによるwebをメインとした集客募集を実施し、観光による地元への経済効果につなげていく。
C-3-2	70	株式会社北信越地域資源研究所	上越妙高駅から主要観光地への動線解析	C-4-1 C-3-1 C-3-2	継続	北陸新幹線が2015年に始動し、新潟の玄関、北陸地域の玄関、上越地域の玄関が上越妙高駅になりつつあるが、そこから主要観光地への動線については調査がされているとは言い難い。中心市街地の活性化、観光スポットの顕在化を考えると、在来線を使つての移動等について具体的な方策が必要だと思ふ。	新幹線駅からの来訪客の動線を明確にする。動線を可視化する。	①フリーペーパーの仕組みを利用したトレース実現 ②Wi-Fiスポットを使用したトレース調査
C-3-2	71	NPO法人高田瞽女の文化を保存・発信する会	「瞽女ミュージアム高田」運営発信事業	C-1-1 C-2-1 C-3-2	継続	H27年11月にミュージアムを開設。郷土の誇るべき瞽女の文化を発信している。春・夏・秋の企画展以外は、土・日曜のみの会館である。来館者は、1年目の1,200人/年間から3年目1,600人/年間まできている。展示の充実と館内(2階)の整備を進め、更なる発信力強化に努める。	年間来館者2,000人 管理運営の充実	1. 県観光商談会(東京・大阪)に参加し、PRすることにより来館者数を増やす。 ・R元9/18東京観光商談会 10/23大阪観光商談会(R2.3予定) 2. 瞽女唄演奏会や門付け再現などのイベントを年4~5回開催し来訪者を増やす。 ・瞽女唄演奏会7/27、10/12、2/9 門付け4/13、10/5、2/9 3. 歴史博物館や上越市立美術館と連携を図り、市内街なか回遊と発信を強化していく。 ・ミュージアム企画展 春4/1~4/21、夏7/27~8/13、秋10/5~10/14 歴史博物館H30.7/21オープン、高田瞽女斎藤真一常設コーナー 上越市立美術館R2夏開館予定、斎藤真一瞽女展示予定 4. ミュージアム2階の改修工事を行い、展示を充実させる。 ・R3年改修工事着工

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
C-3-2	72	街なか映画館再生委員会	高田世界館を活用した街の活性化と交流人口UP計画	C-4-1 C-1-3 C-3-2	継続	日本最古級の常設上映映画館として運営している「高田世界館」を利活用した、人の集まる拠点づくりを中心に活動している。映画上映と合わせたイベントや、情報発信が、主たる活動ではあるが、映画の内容によって集客やイベント内容に濃淡がでてしまう。現在は、建物の持つ魅力を活かして観光交流推進会などと県外にビーアールに行っているが、効果が現われだし、観光見学の数字が伸びてきている。	安定した集客と賑わいの創出を目標として、来年春完成予定の映画館前広場を友好的に使用する方法をみつけていきたい。また、映画館近くの高田小町も含めた面としての活用方法を実現するよう検討していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ■映画上映と、それに関わる監督トークやイベントの実施。 ■映画内容に応じて近隣の店舗と連携した飲食等のイベント実施。 ■館内見学のコースの充実や、未発表のお宝も展示。 ■映画館前広場を使った、フリマや飲食イベントの開催。 ■映画館前広場を使った、屋外上映会。 ■高田小町も会場に利用した展示会。
C-3-2	73	お馬出しプロジェクト	お馬出し塾	C-1-1 C-3-2 C-2-1	継続	2006年から年3回のペースで「お馬出し塾」を開催している。新しい講師の掘り起こしが課題である。	地元講師による講演をお聞きし、教養を深めるとともに会員相互の親睦を深める。	会場は第20回より継続して武蔵野酒造の「楽酔亭」で行っている。会の前半は講演会、後半は「清宴」と称し日本酒と郷土料理のおもてなしを行いながらまちづくりを話題に交流を行っている。
C-3-2	74	お馬出しプロジェクト	えちごトキめき鉄道「冬の雪月花」のおもてなし	C-3-2 C-3-1	継続	2016年から「冬の雪月花」運行に伴い「おもてなしチーム」をつくり、まとめ役として活動している。自主的な活動で前島津社長の理解を得て実施したが、新社長のもとでの実施は未定である。	首都圏から訪れる観光客に雁木を含めた高田に残る「雪国の暮らし」を紹介しながらおもてなしをする。	<ul style="list-style-type: none"> ①高田駅で角巻・トンビ姿によるお出迎え。 ②高田小町でのおもてなし <ul style="list-style-type: none"> ・角巻・トンビの着用体験 ・三味線演奏と方言でのおもてなし ・郷土料理（つけな汁と切り干し大根煮）のおふるまい ・地元商品の販売
C-3-2	76	NPO法人くびきのお宝のこす会	くびき野レールパーク及び瀧本邸公開事業	C-1-3 C-2-1 C-3-2 C-4-1 C-3-1	継続	くびき野レールパークは鉄道ファンや地元の人々からは、体験型の鉄道ミュージアムとしての認知を受けつつある。地域の人々との結びつきをさらに強め、来訪者の拡大を図ることが課題である。また、瀧本邸は市内の名家4邸と連携をとりながら、こちらも来訪者を増やすことが課題である。	平成30年度の年間来訪者数(3334人)を2割上回る、年間4000人の来訪者数を目指す。	<p><くびき野レールパーク></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間5回(6日間)に亘る定期公開・特別公開の実施 ・マンネリ化に陥らない公開イベント内容の工夫、刷新 ・マスコミ等を利用した宣伝の拡大 ・幼児、児童、生徒や一般人を対象とした学習啓発活動の宣伝、推進 ・地元の鉄道関係機関との話し合いによる公開内容の検討 <p><瀧本邸></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスコミ等を利用した宣伝の拡大 ・市内の名家4邸(保坂邸、林富永邸、白田邸、飯田邸)と連携した公開の実施 ・中学生の清掃ボランティアと瀧本邸の歴史的・文化財としての価値宣伝

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
C-3-2	83	株式会社上越タイムス	電子新聞版「つなぐ」プロジェクト推進	D-1-1 C-3-2	継続	盛りだくさんの事業の選択と集約をふまえ、首都圏在住の出身者たちが最も望む、ふるさと貢献と情報受発信の機能を提供したいため。		電子新聞を活用した首都圏在住の上越出身者との「つなぐ」プロジェクトの新展開…弊社は北陸新幹線開業による大交流時代の到来を見据え、2012年夏から全国的にもまれな集積状況のある首都圏在住の故郷出身者との「つなぐ」プロジェクト64事業を進めてきた。7年間の経過と実績をふまえ、ほぼその役割を果たしたものとみなす評価の上に諸事業を終了し、新しい「つなぐ」プロジェクトの集約を目指している。とくに大きな投資を伴った紙ベースの月間上越の発行と15,000人に届けていた通販カタログ事業を終了する。通販カタログ事業は友好団体のふるさと上越ネットワークの同様事業に趣旨を委ねる。月間上越は日刊紙への首都圏版の毎日掲載に代わる情報の双方向通信の機能を果たしてきたが、弊社の電子新聞事業が軌道に乗っていることから情報受発信の機能性の高いツールへシステム転換するもの。
C-3-2	84	株式会社上越タイムス	高校2年生向け地元企業ガイド発行	A-2-1 D-1-1 C-3-2	新規	高校生やいったん進学した学生をいかにふるさと上越の人材として受け入れることができるかは第一級の課題と考えるため。		高校2年生向けの地元優良企業情報を掲載したガイドブックの無料配布…第1期の上越市まち・ひと・仕事創生総合戦略の話し合いや議論では必ず、中高校生に対する人材還流の必要性が指摘されてきた。弊社はこの役割を果たせるのは弊社しかない、とふまえ上越3市の高校生と特別支援学校の生徒、並びに専門学校の学生、計27校の2937人に地元の優良企業を弊社で選出して掲載するガイドブックを製作し、全生徒たちに無料配布する。
C-3-2	85	上越市まちづくり市民大学0B会	移住者のネットワーク化と交流の場づくり事業	D-1-1 C-3-2		上越市に移住してくる人たちの横の連絡が取れていない現状から、移住者間で不安や悩みを話し合って解消する仕組みを作ることが必要です。	移住者の不安や悩みを話し合える仕組みとして、横のネットワークを作ります。新規事業であり、模索しながら実施していく事業ですので具体的な数値目標設定にはそぐわないものと考えます。	事業の内容：市の担当部署と連携して、上越市に移住してきた人たちに呼びかけてネットワークをつくり不安、悩みを話し合う場や交流の場をつくります。 実施方法：広報上越を使って移住者に呼びかけて行きます。また、移住促進に関わっている市民団体にもネットワークに加わってもらい連携していきます。HPを開設してHPを活用した交流の場をつくっていきます。移住者が安心して移住できるように移住希望者と移住者受け入れ地域との橋渡しをする中間支援組織づくりを検討していきたいと考えています。
C-4-1	36	雪だるま財団	ふるさと交流事業	C-1-2 C-4-1 D-1-1	継続	越後田舎体験の受入を始めてから20年。事業開始当時と受入の環境も変わり、受入の中心である山間部の人口減・高齢化は、受入民泊家庭の当初の3分の1ほどにまでに激減している。あわせて、体験指導者等の高齢化や宿泊施設の廃業、施設の老朽化など様々な面で支障をきたしている。平成29年と30年に農水省の農泊推進事業を行っているが収入に結びつく事業展開は難しい。今後取り組む方向として、学校団体に限らない受入拡大（一般・企業・インバウンド）が必須である。	上越地域における地域資源を活用した体験型観光交流事業を実施し、地域内で連携を図りながら、観光交流人口の拡大を目指す。	体験型観光交流の受入及び促進 (1) 大人・企業・インバウンドなど様々な顧客ニーズに応えられるよう、地域・人・施設等の連携を図り、新しい体験プログラムの検討、既存のプログラムのレベルアップ、受入れの課題解決などを図る。 例) 個人旅行、インバウンド等、体験・交流を含めた観光事業として、ターゲットに応じた商品を開発し販売する。 (2) 受入地域の拡大、インストラクターの人材育成 例) 体験活動に関する指導者等の人材育成のための研修・セミナーの実施 (3) 営業・情報発信を行ない、農泊の推進も継続していく。

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
C-4-1	48	上越商工会議所 (謙信公)	謙信公聖地構想に基づく春日山城の振興／上越・上田・甲府・三国同盟推進事業	C-4-1	継続	地域内外への情報発信不足	人口減少社会において交流人口を増やすことで外貨獲得を目指す。	三国同盟、必勝祈願の旅を通じた相互送客や情報発信を強化する。 ①県外市外の観光イベント・商談会への出展（観光ツーリズムEXPO等） ②上越・上田・甲府による相互送客 ③ろくもん・雪月花相互乗り入れ事業 ④QRコードを利用した三国スタンプラリー等の実施
C-4-1	49	公益社団法人上越観光コンベンション協会	魅力ある観光地づくり事業	C-4-1 C-4-2	継続	・当市の自然、歴史、文化等の魅力の発信 ・市内全域における周辺観光の促進 ・スポーツ大会や学術会議などのコンベンション誘致	観光事業及びコンベンション事業を当市への誘客の主軸とし交流人口を拡大させ、経済波及効果を得る。	○観光施設の管理運営事業 ・観光案内所運営事業（上越妙高駅、高田駅、直江津駅） ・観光施設（上越観光物産センター、高田城三重櫓、海水浴場） ○観光イベント支援事業 ・高田城百万人観覧会、春日山城跡での観光客への情報提供、越後上越上杉おもてなし武将隊、観光宣伝活動、ホームページ等による観光宣伝、観光パンフレット等の作成、食を通じたPR、物産販売の出店機会の情報提供 ○来場者満足度向上事業 ・観光ボランティアガイド及び有償ガイドの育成と派遣 ○誘客促進事業 ・観光振興促進助成事業、観光ツアー商品の提案の開発、広域観光ネットワークの推進、インバウンド事業の推進、募集型企画旅行の造成促進、上越市出身者交流促進事業 ○上越市内のコンベンションの推進 ・コンベンション誘致活動、コンベンション開催支援事業 ○観光物産展推進事業 ・上越市の観光と物産展開催 ○実行委員会事務局 ・上越まつり、上越連まつり、レルヒ祭 ○その他 ・フィルムコミッション事業、着ぐるみ貸出
C-4-1	64	商工会議所政策委員会（大島G）	雁木の街「越後高田」の街なか遺産を活用した文化観光・百年体験事業	C-1-1 C-1-3 C-4-1	継続	【背景】高田エリアは上越市の重点集客エリアであり、上越市全体の観光発展には、高田エリアのさらなる魅力向上が必要と考える。 【課題】期間限定イベントでなく、通年を通じた観光への発展。自然・歴史・文化等各サービスの連携。発酵食品等特産品開発。交通網との連携による周遊型観光の取組。情報発信と広域連携によるプロモーション強化。など。	百年料亭宇喜世、高田世界館等、雁木を活用した各資源の100年以上の歴史、文化を活かした「雁木のまち越後高田」の街なか遺産を活用した文化観光・百年体験ツーリズムを開発する。	①宇喜世及び他の100年遺産の歴史体験、文化体験、観光、食事、物販を自由にセット・カスタマイズできる現在も日常生活の場として利用されている遺産を活かした文化体験ツアー。 ②レンタル和服に着替え、仲居接客（目配り・気配り・心配り）体験、仲居頭からの「おもてなし」講義等を、100年料亭で世界に誇れる「おもてなし」のプロ仲居体験プラン ③語り手より百年遺産（建屋・老舗・町屋）等の歴史・文化の説明を受け、雁木の街並みや神社・寺院等を散策する、雁木街歩き「百年文化と老舗めぐり」ツアー。 ④県外在住の上越出身者に向け、100年の歴史文化越後高田で和の祝宴プランの展開。婚前の「顔合わせ」「結納」をメインに、家族規模の挙式・披露宴を行えるプランも充実予定。 ⑤浄興寺大門通りを「城下の街並みシンボルロード」と位置付け、まち歩きの語り手説明以外にも、神輿（日枝神社）の巡行、駐車場を利用した夏祭りイベント等を開催する。

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
C-4-1	65	商工会議所政策委員会(大島G)	酒造蔵・醸造文化発信事業	C-4-1 C-3-2	新規	<p>【背景】高田まちなかに存在する百年を超える「建物」「老舗」「町屋」「文化」と共存する立地に存在する事を有効活用し、醸造所ならではの事業を実施し、まちづくりに参画していく必要性。</p> <p>【課題】日本酒愛好家人口の減少に対し、多角的な観点で日本酒を取り上げていくことで視線を変える事が重要と考える。</p>	<p>既存の顧客がさらに満足してもらうことが第一目標とし、各事業の実施状況を情報発信することで、上越市外の人に酒蔵を知ってもらうことで、新規顧客の増加と共に醸造所に足を運んでもらえる事業を実施し、高田まちなかの活性化に貢献する。更に無類のまちなかに存在する醸造所の維持・継承を目標とする。</p>	<p>①醸造所の見学 醸造所の改装に伴い、一般の方にも酒蔵を体験できる見学会を開催し、市外からの観光客及びインバウンド客を誘客することで日本酒の奥深さを知ってもらう。</p> <p>②上越産土産売場の設置 上越名物や特産品を手軽に購入できるコーナーを醸造所内に設置し、高田まち歩きの中でおみやげ品等の対応も出来る環境づくりを提案する。</p> <p>③試飲・食事のもてなし 敷地内の「楽酔亭」で庭園を鑑賞しながらの、見学者等に対応した利き酒や試飲を体験してもらうと共に、一般客や観光客に対しての食事の席も用意することで日本酒を満喫してもらう。 ※すべての事業の様子を画像・動画で情報発信し、また、来場、来店した方にも情報発信を促す。</p>
C-4-1	66	商工会議所政策委員会(大島G)	着地型観光事業	C-4-1 C-3-2	新規	<p>インバウンドを中心とする観光は東京、大阪、京都などの大都市圏から地方都市へ人の流れが拡散してきたが、昨今はさらに日本の田舎に外国人の興味が注がれ始めており、わが上越市にもチャンスが訪れている。こうした状況下で上越に観光事業の種を蒔き、新しい産業の一つに育てるため、この事業を推進していく。</p>	<p>「人が集まる仕掛け」を軸に観光誘客促進のためのsns配信等による知名度向上と観光を生業とする事業者が増えることにより、将来的には首都圏など他県で学ぶ本市出身の学生達のUターン就職や、他県、他国からの移住促進につなげる。</p>	<p>○観光受け入れ業者の開拓とプログラムの開発： 来訪する人の五感に訴える体験メニューなど外客を受け入れる態勢と受け入れ側の協力体制の構築に向けたネットワーク化を推し進め、可能な限り具体的なプログラムを可視化していく。</p> <p>○着地型企画商品の造成、広報、募集、催行： 受け入れ施設のネットワークを活かしたまち歩きや各施設でのさまざまな体験をはじめ、上越名物や特産品を手軽に購入できる商品造成を行う。また、ジャンルに合わせたターゲット層の絞り込みによりsns配信などによるwebをメインとした集客募集を実施し、観光による地元への経済効果につなげていく。</p>
C-4-1	67	花のまち高田プロジェクト	花のまち高田プロジェクト	C-1-1 C-4-1	継続	<p>◆課題・・・高齢化やマンパワー不足が課題としてあげられる。</p> <p>◆背景として・・・中心市街地の活性化を目的として20年間取り組んできた「城下町高田花ロード」の実行委員会が母体であり、これまで、新たな人材や次世代育成に取り組めなかったため。</p>	<p>◆目標・・・身の丈にあった活動や、次世代の人たちが興味、関心を持つ内容で、新しい商店街及び中心市街地の活性化を目指していきたい。</p> <p>また、商店街ならではの健康増進の啓蒙事業など、シニアが取り組むべき課題にも取り組んでいきたい。</p>	<p>◆事業の概要・・・「花」をテーマに四季を通じた商店街ならびに中心市街地活性化に取り組む。</p> <p>春・・・「世界の桜」の写真展の開催。→インバウンド×観桜会誘客×個店PR</p> <p>夏・・・「お水鉢プロジェクト」の開催。→ 蓮まつりPR×商店街PR×まちの景観作り。</p> <p>秋・・・「たかだ花ロードウィーク」の開催。→アート×商店街振興×まちなか回遊。</p> <p>冬・・・「本町ウインターマーケット」の開催。→インバウンド×商店街振興</p> <p>上記のイベントは、本町商店街、まちづくり上越、高田まちづくり株式会社、オープンガーデン愛好会等と連携して実施していく予定。また、時期や期間、回数などは時流や予算を鑑みながら検討し、進めていく。</p>
C-4-1	68	くびき振興会	当振興会の基盤強化	C-1-2 C-4-1	新規	<p>現状、当会は市からの委託事業を中心として活動、運営している。</p> <p>昨今、国を筆頭に県、市の財政が厳しいため委託事業の縮小が懸念される。</p> <p>将来を見通して稼げる事業を模索し取り組み、経営環境の改善・発展を図る。</p>	<p>委託事業費外比率を10%以上とする。</p>	<p>・各振興会では様々な事業を請け負っているとの事なので、先ずは先進振興会の内容を調査する。</p> <p>・当会で対応できる事業、受注可能な事業、作業はあるかを調査。</p> <p>・事業受託に向けたスキルアップのため各種講演会、セミナーに参加して知識をひろめアンテナの感度を上げる。</p>

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
C-4-1	70	株式会社北信越地域資源研究所	上越妙高駅から主要観光地への動線解析	C-4-1 C-3-1 C-3-2	継続	北陸新幹線が2015年に始動し、新潟の玄関、北陸地域の玄関、上越地域の玄関が上越妙高駅になりつつあるが、そこから主要観光地への動線については調査がされているとは言い難い。中心市街地の活性化、観光スポットの顕在化を考えると、在来線を使っの移動等について具体的な方策が必要だと思う。	新幹線駅からの来訪客の動線を明確にする。動線を可視化する。	①フリーペーパーの仕組みを利用したトレース実現 ②Wi-Fiスポットを使用したトレース調査
C-4-1	72	街なか映画館再生委員会	高田世界館を活用した街の活性化と交流人口UP計画	C-4-1 C-1-3 C-3-2	継続	日本最古級の常設上映映画館として運営している「高田世界館」を利活用した、人の集まる拠点づくりを中心に活動している。映画上映と合わせたイベントや、情報発信が、主たる活動ではあるが、映画の内容によって集客やイベント内容に濃淡がでてしまう。現在は、建物の持つ魅力を活かして観光交流推進会などと県外にピーアールに行っているが、効果が現われだし、観光見学の数字が伸びてきている。	安定した集客と賑わいの創出を目標として、来年春完成予定の映画館前広場を友好的に使用する方法をみつけていきたい。また、映画館近くの高田小町も含めた面としての活用方法を実現するよう検討していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ■映画上映と、それに関わる監督トークやイベントの実施。 ■映画内容に応じて近隣の店舗と連携した飲食等のイベント実施。 ■館内見学のコースの充実や、未発表のお宝も展示。 ■映画館前広場を使った、フリマや飲食イベントの開催。 ■映画館前広場を使った、屋外上映会。 ■高田小町も会場に利用した展示会。
C-4-1	76	NPO法人くびきのお宝のこす会	くびき野レールパーク及び瀧本邸公開事業	C-1-3 C-2-1 C-3-2 C-4-1 C-3-1	継続	くびき野レールパークは鉄道ファンや地元の人々からは、体験型の鉄道ミュージアムとしての認知を受けつつある。地域の人々との結びつきをさらに強め、来訪者の拡大を図ることが課題である。また、瀧本邸は市内の名家4邸と連携をとりながら、こちらも来訪者を増やすことが課題である。	平成30年度の年間来訪者数(3334人)を2割上回る、年間4000人の来訪者数を目指す。	<p><くびき野レールパーク></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間5回(6日間)に亘る定期公開・特別公開の実施 ・マンネリ化に陥らない公開イベント内容の工夫、刷新 ・マスコミ等を利用した宣伝の拡大 ・幼児、児童、生徒や一般人を対象とした学習啓発活動の宣伝、推進 ・地元の鉄道関係機関との話し合いによる公開内容の検討 <p><瀧本邸></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスコミ等を利用した宣伝の拡大 ・市内の名家4邸(保坂邸、林富永邸、白田邸、飯田邸)と連携した公開の実施 ・中学生の清掃ボランティアと瀧本邸の歴史的・文化財としての価値宣伝

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
C-4-2	49	公益社団法人上越観光コンベンション協会	魅力ある観光地づくり事業	C-4-1 C-4-2	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・当市の自然、歴史、文化等の魅力の発信 ・市内全域における周遊観光の促進 ・スポーツ大会や学術会議などのコンベンション誘致 	観光事業及びコンベンション事業を当市への誘客の主軸とし交流人口を拡大させ、経済波及効果を得る。	<ul style="list-style-type: none"> ○観光施設の管理運営事業 ・観光案内所運営事業（上越妙高駅、高田駅、直江津駅） ・観光施設（上越観光物産センター、高田城三重櫓、海水浴場） ○観光イベント支援事業 ・高田城百万人観桜会、春日山城跡での観光客への情報提供、越後上越上杉おもてなし武将隊、観光宣伝活動、ホームページ等による観光宣伝、観光パンフレット等の作成、食を通じたPR、物産販売の出店機会の情報提供 ○来場者満足度向上事業 ・観光ボランティアガイド及び有償ガイドの育成と派遣 ○誘客促進事業 ・観光振興促進助成事業、観光ツアー商品の提案の開発、広域観光ネットワークの推進、インバウンド事業の推進、募集型企画旅行の造成促進、上越市出身者交流促進事業 ○上越市内のコンベンションの推進 ・コンベンション誘致活動、コンベンション開催支援事業 ○観光物産展推進事業 ・上越市の観光と物産展開催 ○実行委員会事務局 ・上越まつり、上越蓮まつり、レルヒ祭 ○その他 ・フィルムコミッション事業、着ぐるみ貸出
D-1-1	9	上越公共職業安定所	U・Iターン希望者に対する就職支援	A-2-1 D-1-1	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・進学等により上越市から転出した方のうち地元へのUターン希望者へのサポートが必要。 ・将来労働力人口が減少する中で、企業の人材確保の観点からもU・Iターン希望者への就職支援が必要。 	・上越市へのU・Iターン希望者の就職促進	<ol style="list-style-type: none"> 1. U・Iターン希望者へ、にいがたUターン情報センターと連携した就職支援を実施 2. U・Iターン希望者に対して、ハローワークの全国ネットワークシステムを活用した就職支援の実施。
D-1-1	27	上越信用金庫	各種ローン等の円滑な提供	B-2-2 D-1-1	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代の経済的安定、結婚、出産、子育てへの支援、仕事と生活の調和（ライフワークバランス）を図るため、金融機関の本業を意識した課題解決支援が必要とされる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通年を通じた、仕事と生活の調和（ライフワークバランス）に沿った各種ローン（カードローン、マイカーローン、教育ローン、プライダルローン、住宅ローン）の提供。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済負担を考慮した金利優遇。 ・地域に就職する若年層、地元出身の新社会人、Uターン、Iターンへの新社会人や移住者（移住希望者）への支援。 ・あらゆる場面での円滑な資金提供を支援し、結婚、出産、子育てしやすい環境の整備を行う。

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
D-1-1	36	雪だるま財団	ふるさと交流事業	C-1-2 C-4-1 D-1-1	継続	越後田舎体験の受入を始め てから20年。事業開始当時と 受入の環境も変わり、受入の 中心である山間部の人口減・ 高齢化は、受入民泊家庭の当 初の3分の1ほどにまでに激減 している。あわせて、体験指 導者等の高齢化や宿泊施設の 廃業、施設の老朽化など様々 な面で支障をきたしている。 平成29年と30年に農水省の 農泊推進事業を行っているが 収入に結びつく事業展開は難 しい。今後取り組む方向とし て、学校団体に限らない受入 拡大（一般・企業・インパウ ド）が必須である。	上越地域における地域 資源を活用した体験型 観光交流事業を実施 し、地域内で連携を図 りながら、観光交流人 口の拡大を目指す。	体験型観光交流の受入及び促進 (1) 大人・企業・インバウンドなど様々な顧客ニーズに応えら れるよう、地域・人・施設等の連携を図り、新しい体験プログラ ムの検討、既存のプログラムのレベルアップ、受入れの課題解決 などを図る。 例) 個人旅行、インバウンド等、体験・交流を含めた観光事業 として、ターゲットに応じた商品を開発し販売する。 (2) 受入地域の拡大、インストラクターの人材育成 例) 体験活動に関する指導者等の人材育成のための研修・セミ ナーの実施 (3) 営業・情報発信を行ない、農泊の推進も継続していく。
D-1-1	69	かみえちご山里 ファン倶楽部	地域再生を担う若者の人材 育成	D-1-1 C-2-1 C-1-2	継続	子どもたちへの教育は、継続 して支援することが重要。地 域に対する意識が途切れるこ となく高まるとともに、自己 肯定感も高まると感想が上 がっている。	UIJターンを促す	・地元中学校を対象にしたUターン教育の実施（年10回程の座学 とフィールドワーク） ・インターンシップの受け入れ（秋に2大学を予定）
D-1-1	83	株式会社上越タイ ムス	電子新聞版「つなぐ」プロ ジェクト推進	D-1-1 C-3-2	継続	盛りだくさんの事業の選択と 集約をふまえ、首都圏在住の 出身者たちが最も望む、ふる さと貢献と情報発信の機能 を提供したいため。		電子新聞を活用した首都圏在住の上越出身者との「つなぐ」プロ ジェクトの新展開…弊社は北陸新幹線開業による大交流時代の到 来を見据え、2012年夏から全国的にもまれな集積状況のある首都 圏在住の故郷出身者との「つなぐ」プロジェクト64事業を進めて きた。7年間の経過と実績をふまえ、ほぼその役割を果たしたも のとみなす評価の上に諸事業を終了し、新しい「つなぐ」プロ ジェクトの集約を目指している。とくに大きな投資を伴った紙 ベースの月間上越の発行と15,000人に届けていた通販カタログ事 業を終了する。通販カタログ事業は友好団体のふるさと上越ネッ トワークの同様事業に趣旨を委ねる。月間上越は日刊紙への首都 圏版の毎日掲載に代わる情報の双方向通信の機能を果たしてきた が、弊社の電子新聞事業が軌道に乗っていることから情報発信 の機能性の高いツールへシステム転換するもの。
D-1-1	84	株式会社上越タイ ムス	高校2年生向け地元企業ガ イド発行	A-2-1 D-1-1 C-3-2	新規	高校生やいったん進学した学 生をいかにふるさと上越の人 材として受け入れることがで きるかは第一級の課題と考 えるため。		高校2年生向けの地元優良企業情報を掲載したガイドブックの無 料配布…第1期の上越市まち・ひと・仕事創生総合戦略の話し合 いや議論では必ず、中高校生に対する人材還流の必要性が指摘さ れてきた。弊社はこの役割を果たせるのは弊社しかない、とふま え上越3市の高校生と特別支援学校の生徒、並びに専門学校の学 生、計27校の2937人に地元の優良企業を弊社で選出して掲載す るガイドブックを製作し、全生徒たちに無料配布する。

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
D-1-1	85	上越市まちづくり 市民大学OB会	移住者のネットワーク化と 交流の場づくり事業	D-1-1 C-3-2		上越市に移住してくる人たちの横の連絡が取れていない現状から、移住者間で不安や悩みを話し合っ解決する仕組みを作ることが必要です。	移住者の不安や悩みを話し合える仕組みとして、横のネットワークを作ります。新規事業であり、模索しながら実施していく事業ですので具体的な数値目標設定にはそぐわないものと考えます。	事業の内容：市の担当部署と連携して、上越市に移住してきた人たちに呼びかけてネットワークをつくり不安、悩みを話し合う場や交流の場をつくります。 実施方法：広報上越を使って移住者に呼びかけて行きます。また、移住促進に関わっている市民団体にもネットワークに加わってもらい連携していきます。HPを開設してHPを活用した交流の場をつくっていきます。移住者が安心して移住できるよう移住希望者と移住者受け入れ地域との橋渡しをする中間支援組織づくりを検討していきたいと考えています。
D-3-2	18	上越教育大学	公募型地域貢献事業	C-2-1 C-2-2 D-3-2	継続	本事業は、上越市における課題の解決や地域の活性化に資する各種事業を学内で募集し、令和元年度は「上越市地方創生推進事業補助金」を活用して実施している。各種事業への参加者や関係者のニーズを把握し、引き続き、上越市の地域活動の活性化や地域振興につながる事業となるよう改善・充実を図っていくこととしているが、事業継続のための予算の確保が課題（特に学内予算）である。	本事業は、上越市に立地する大学として、様々な分野の教育・研究成果を上越市の地域活動の活性化や地域振興、上越市に暮らす子どもたちの支援などにつなげる。	「組織的な地域交流」「地域貢献」につながる事業や「地域の活性化」「地域振興」につながる事業を「公募型地域貢献事業」（以下、本事業。）として、学内の教員から各種事業を募集・実施することで、本学教員の教育・研究成果を広く地域社会に還元する。また、事業の企画にあたっては、その内容や成果等が本学学生に反映できるものであることのほか、本学学生以外の学外者（学校・教育関係者や地域住民等）が参加できるものであることを求める。 なお、本事業は、毎年度、学内の教員から各種事業を募集し、別途定める審査基準により審査・採択する。 <参考>令和元年度実施事業 ①上越地域のエネルギー環境教育の推進とそれに関わる地域ネットワークづくり ②山屋敷スポーツクラブの運営支援 ③学校現場のニーズに応じた社会科歴史地域教材の開発と研修機会の提供 ④上越市清里区の人々と生活文化を継承・創造するプロジェクトⅠ ⑤大学・学校・地域連携型の学習支援活動のモデル事業 ⑥上越子ども支援プロジェクト ⑦地域の伝統文化を生かした共同教育推進事業
D-3-2	19	上越教育大学	外国人留学生の雪国宿泊体験（スキー等を含む）による上越市の国際化推進事業	C-3-2 D-3-2	継続	事業に参加した外国人留学生から、上越市の魅力についてより多くの留学生に情報発信してもらう。	・スキー等の雪国体験を通して、冬の上越市の魅力に気付かせる。 ・外国人留学生からの情報発信を通して、上越市の国際化を推進し、地域の活性化に資する。 ・外国人留学生の上越市における生活を、体験を通して充実させる。	スキー発祥の地である上越市の地域性を生かし、ほとんどスキーをしたことのない外国人留学生に宿泊を伴うスキー等の体験を通して、冬の上越市の魅力に気付かせる。 その魅力を参加した外国人留学生の出身国の人々や友人である他の外国人留学生等に情報発信してもらうことにより、上越市の国際化を推進するとともに、地域の活性化に資する。 なお、具体的な情報発信の方法として、次のような取り組みを予定している。 ・上越教育大学のホームページにおいて事業内容を掲載することで、海外の交流協定締結大学の学生に上越市の魅力を広く紹介する。 ・留学生から、本事業を通して知ることができた上越市の魅力について、SNS、メール、口コミ等により、広く紹介してもらうよう働きかけを行う。 ・上越市のまち・ひと・しごと創生推進協議会のSNSページを活用させていただき、事業内容を紹介する。

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
D-3-2	20	新潟県立看護大学	市民公開講座及び上教大との連携公開講座	B-2-2 B-2-3 C-2-1 D-3-2	継続	・医療分野の著名な知識人や先駆的な取り組みを行っている実践者を招いた市民公開講座を開催している。 ・本学と上越教育大学は地域社会に貢献することを目的として協定を締結し、お互いの大学が持つ資源を活用した公開講座を開催している。	・看護・医療・福祉・教育分野の研究や実践に関する新しい知見やトピックスについて講座を開催し、地域住民に学習の機会を提供する。	(現時点で事業内容は未定のため、令和元年度の内容を記載する。) ・市民公開講座 「心を元気にする4つのステップ」をテーマに、著名な学識者を講師に招く。 参加費無料、参加者150人規模 ・看護大・上教大連携公開講座 「長寿の秘訣！健康で豊かに生きる」をテーマに、両大学の教員各2名が講師を務める。 参加費無料、参加者150人規模
D-3-2	21	新潟県立看護大学	いきいきサロン	B-2-2 B-2-3 C-2-1 D-3-2	継続	健康に関心のある地域の住民と、看護や健康等の専門家との交流の場として、平成21年度から開催している。	地域住民が気軽に大学に足を運び、健康について関心を寄せ、学び合う場を目指す。	(現時点で事業内容は未定のため、令和元年度の内容を記載する。) 全5テーマで実施する。 ・心と体の健康のための食事～美味しく食べて健康を～ ・歯周病を知ろう ・がんと「緩和ケア」－からだどころの痛みを和らげるケア－ ・高齢者のうつ予防と家族の対応 ・流行性感染症にかかりたくない 講師は本学教員の他、医療機関院長等が務める。 参加費無料、参加者各150人規模
D-3-2	22	新潟県立看護大学	どこでもカレッジ	B-2-2 B-2-3 C-2-1 D-3-2	継続	現職の看護職・介護職はもちろん、潜在看護職へのリカレント教育を推進する活動を実施している。	新潟県内、特に上越地域の看護職の総合的な資質向上を目指し、様々な学習及び研修の機会を提供することにより、県民のヘルスケアの充実を目指す。 加えて、卒業生の卒業後教育も視野に入れた看護職の復職支援を行う。	(現時点で事業内容は未定のため、令和元年度の内容を記載する。) どこでもカレッジ公開講座 ・最新トピックス 1コース ・看護研究支援 6コース ・看護実践スキルアップ 4コース 講師は本学教員の他、医療機関認定看護師等が務める。 参加費無料～2,000円、参加者各10人～80人規模 バーチャルカレッジ ・インターネットを利用し、本プロジェクトホームページ上へ掲載された動画等の教材を用いて学修することができるプログラム。受講者の学びの場や時間を限定せず、インターネット環境さえあればいつでもどこでも繰り返し学ぶことができ、自分のペースで学習することができる。 ・参加費無料、ただし会員登録が必要

第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略に向けた各団体の事業概要シート一覧

具体的施策 (代表)	番号	団体名	事業名	具体的施策	事業の概要			
					(1)区分	(2)課題、背景	(3)目標	(4)事業の内容・実施方法
D-3-2	23	新潟県立看護大学	出前講座	B-2-2 B-2-3 C-2-1 D-3-2	継続	平成26年度より地域貢献の一環として、教育機関、市民団体及び企業等の求めに応じて、本学教員が外向いて講義等を行う出前講座を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ・本学教員が地域に向くことで大学を身近に感じてもらう ・本学教員の研究成果等を地域へ還元する ・地域住民への生涯学習の機会を提供する 	<p>(現時点で事業内容は未定のため、令和元年度の内容を記載する。)</p> <p>一般向け全12テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いざというときに役立つ“子どものホームケア” ・働き盛りの方々へ 少し生活を見直してみませんか？(食事編) ・認知症のこと知りたい 他 <p>看護職・介護職向け全4テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護職・介護職のための緩和ケア講座 他 <p>講師は本学教員、講師料及び謝金等は不要、旅費を負担していただく。 実施件数37件、参加者延べ1,150人(平成30年度実績)</p>